

4# 72A-95

2
50

官令類纂

明治十六年九月

第壹卷

12
1113
53-01

特51
699

官令類纂目錄

明治十六年第九月

官令

○太政官

○布告第三拾三號	熊本始審裁判所管内牧治安裁判所改置ノ件	一	丁
○布告第三拾四號	重罪裁判所區劃並ニ名稱改定ノ件	全	丁
○布達第三拾一號	韶子内親王薨去ニ付歌舞音曲停止ノ件	全	丁
○布達第三拾七號	陸軍恩給改正ノ件	二	丁
○達第三拾八號	海軍恩給改正ノ件	全	上
○達第三拾九號	勲章年金褫奪及停止取扱手續制定ノ件	二	丁
○達第四拾號	京都ニ宮内省支廳設置ノ件	三	丁
○達第四拾壹號	京都宮内省支廳職員ノ件	全	丁
○達第四拾貳號	京都宮内省支廳ニ參内參賀ノ件	四	丁
○達第四拾三號	陵掌陵丁墓塚墓丁等宮内省ニ屬セラル件	全	丁
○告示第五號	韶子内親王薨去ノ件	全	丁
○告示第六號	章子内親王同上ノ件	全	丁
○告示第七號	故韶子内親王御葬送ノ件	全	丁
○告示第八號	故章子内親王同上ノ件	全	丁
○號外達	韶子内親王薨去ニ付天氣伺參内ノ件	全	丁

緒言

一本書ハ本年九月分ノ太政官官令ヲ始メ山梨縣布達告示并ニ學事報告判決各官省同指令等ヲ採録セタル者ナリ

一本書ハ官令報告令訓判決ノ四項目トナシ各別ニ參觀スルノ便ニ供ス

一本書ハ豫テ新聞紙條例ニ據リ發兌スルノ都合ナリレカ允可後着手次第ニ遷延シ終ニ期日ヲ失スルノ不幸ニ陥リタルガ故ニ改メテ出版條例ノ手續ニ據リ更ニ届出テノ時日ヲ費シタルガ爲メ圖ラヌモ幾句ヲ空過シ看官ノ好意ニ背キタリ今後ハ一層注意シ迅速其手續ヲ踐ミ以テ此ノ悔ナカラシムコト勉ムヘシ

一小口ノ丁附ハ官令報告ト令訓判決トヲ區別シテ二様ト爲セリ之レ參觀ニ便ナラシメノガ爲ナリ

編者識

○號外達

○山梨縣 童子内親王薨去ニ付同ノ件

全 丁

○甲第四拾九號	私立病院設置規則ノ件	十五
○甲第五拾壹號	聯合村分離ノ件	全
○甲第五拾貳號	醫師藥舖兼業ヲ禁スル件	全
○甲第五拾三號	墓地制限ノ件	全
○甲第五拾四號	貸座敷及ヒ藝娼妓營業添翰ノ件	全
○甲第五拾五號	縣會議員退職ノ件	全
○乙第七拾貳號	富士川以下二川へ量水標建設ノ件	全
○乙第七拾三號	種痘人員表差出方ノ件	十二
○告示第百三拾九號	陸海軍恩給令改正制定ノ件	十三
○告示第百四拾壹號	戸長役場割印帳更正ノ件	三拾七
○告示第百四拾貳號	同上	三十八
○告示第百四拾三號	同上	三十九
○告示第百四拾四號	同上	四十
○告示第百四拾五號	同上	四十一
○告示第百四拾六號	同上	四十二
○告示第百四拾七號	巡查手帳紛失ノ件	全
○告示第百四拾八號	地券証紛失ノ件	全
○告示第百四拾九號	免許證札紛失ノ件	四十四

○告示第百五拾壹號	同上	全
○告示第百五拾貳號	地券証紛失ノ件	四十五
○告示第百五拾三號	河身改修工事直轄ノ件	全
○告示第百五拾四號	戸長役場割印帳更正ノ件	全
○告示第百五拾五號	同上	四十七
○告示第百五拾六號	警部長新任ノ件	四十八
	陸軍々醫講習生召集ノ件	全

學事報告

○第貳拾八號	學事年報ノ件	五十三
○第貳拾九號	獎勵試驗施行ノ件	全
○第三拾號	各小學校後期試驗ノ件	全
○第三拾壹號	第十四學区内學事申報ノ件	全
○第三十二號	小學校生徒習字本ノ件	五十九

○令 訓

○內務省指令

○地方稅ニテ土地買上ノ件	壹
○郡長へ分任ノ件	全
○戸長俸給ノ件	全
○監獄費取扱方ノ件	全
○土地買上ノ際約定書ノ件	全

- 服務紀律適日ノ件
- 藥湯營業ノ件
- 戶長商賣營業ノ件
- 地方衛生會員任期ノ件
- 官吏準官吏衛生委員兼務ノ件
- 郡書記巡迴訓導兼務ノ件
- 拘禁囚徒取扱方ノ件
- 地方衛生會委員ノ件

○陸軍省指令

- 徵兵死否ノ件
- 癱疾不具者檢査ノ件
- 軍需徵發ノ件

○文部省指令

- 學區內經費共通ノ件
- 教員免許狀下附ノ件
- 履修ノ學科ハ試験ヲ須ヒス免許狀下附ノ件
- 學務委員薦擧ノ件
- 學區內經費共通ノ件

○司法省指令

- 身代限財產取調ノ件

全全全全全全
丁丁丁丁丁丁

全五四
丁丁丁

全六六五
丁丁丁丁

七
丁

- 戶長公証猶豫ノ件
- 舊法處刑期限中新法實施後重輕罪ヲ犯セシ者假出獄ノ件
- 盜難ニ罹レル物品處分ノ件
- 犯罪ニ關スル物品處分ノ件
- 身代限財產取調ノ件
- 土石ヲ竊取シタル者處分ノ件
- 監視人取扱方ノ件
- 烟草稅則違犯者取扱方ノ件

○大藏省指令

- 賣藥營業者免許期限過鑑札書換及税金徵収ノ件
- 烟草定價附記ノ件
- 酒造營業引續ノ件
- 印紙類賣捌出願ノ受恩典者保証人ノ件
- 印紙賣捌ノ件

○農商務省指令

- 農商工會議ノ件
- 勸業諮問會及勸業委員設置ノ件
- 民設共進會賞狀下與ノ件

○高等法院判決

- 福島事件ノ裁判言渡書

全全全十一
丁丁丁丁

全十三
丁丁丁

十五
丁

全全全九全全八
丁丁丁丁丁丁

官令類纂

明治十六年第九月

○官令

○太政官

○布告第三十二號(九月七日)

(司法卿連名)

明治十六年六月第貳拾號布告熊本始審裁判所管内内牧治安裁判所ヲ更ニ宮地村ニ改置ス

右奉 勅旨布告候事

(司法卿連名)

○布告第三拾三號(九月七日)
明治十四年十二月第七拾八號布告ヲ廢シ自今重罪裁判所ノ管轄ハ各始審裁判所管内ヲ

以テ一區劃ト定メ各其地名ヲ冒シ某重罪裁判所ト名稱ス

但沖繩縣札幌縣根室縣ノ地方ハ従前ノ通

右奉 勅旨布告候事

○布達第三十號(九月七日)

韶子内親王薨去ニ付東京府下ハ本日ヨリ御葬送當日マテ其他ノ地方ハ布達到達ノ日ヨリ三日間歌舞音曲停止セシム

右布達候事

十六年九月

太政官

○布達第三拾壹號(九月八日)
皇子内親王薨去ニ付東京府下ハ本日ヨリ御葬送當日マテ其他ノ地方ハ布達到達ノ日ヨリ三日間歌舞音曲停止セシム
右布達候事

(官省院廳府縣)

○達第三拾九號(九月十三日)
本年六月第貳拾貳號布告ノ旨ニ依リ勳章年金褫奪及停止取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルトキハ榮譽ヲ汚辱シタルモノトス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免職條例ニヨリ免官シタル者

第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ褫奪シタル後處刑

言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルトキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿

ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀

ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條 勳章局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁

錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當

否ヲ論定シ褫奪スヘキモノハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局惣裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シ

ル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ

具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ

還納スヘシ

第九條 勳賞ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事

由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若シハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦之ヲ申告スヘシ

○達第四拾號(九月二十二日)

(官省院廳府縣)

今般京都ニ宮内省支廳設置候條此旨相達候事

○達第四拾壹號(九月二十二日)

(官省院廳府縣)

京都宮内省支廳中左ノ職員被置候條此旨相達候事

殿掌 奏任取扱 殿部 判任取扱 殿丁 等外取扱

○達第四拾貳號(九月二十二日)

(官省院廳府縣)

奏任官及六位勲六等以上ノ輩在東京ノ外ハ新年紀元天長兩節賀表差出來候處明治十七年ヨリ京都御所ニ於テモ新年參賀被爲行候ニ付京都住居在勤若シハ出張ノ向ハ參内拜賀シ且紀元天長兩節宮内省支廳ニ參賀可致此旨相達候事

○達第四拾三號(九月二十三日)

(府 縣)

陵掌陵丁墓掌墓丁及守丁自今宮内省ニ被屬候條此旨相達候事

○告示第五號(九月七日)

韶子内親王昨六日午后八時薨去被遊候

右告示候事

○告示第六號(九月八日)

章子内親王本日午后一時二十五分薨去被遊候

右告示候事

○告示第七號(九月十日)

故韶子内親王來ル十三日午前第六時御出棺小石川區豐島岡ニ御葬送相成候

右告示候事

○告示第八號(九月十一日)

故章子内親王來十五日午前六時御出棺小石川區豐島岡ニ御葬送相成候

右告示候事

○號外達(九月七日)

(官省院廳府縣)

韶子内親王昨六日午后八時薨去被遊候ニ付在京ノ奏任官以上華族ノ輩本日ヨリ三日ノ間爲伺天機宮内省ニ參上可致候此旨相達候事

○號外達(九月九日)

(官省院廳府縣)

章子内親王本日午后一時二十五分薨去被遊候ニ付在京ノ奏任官以上華族ノ輩本日ヨリ三日間爲伺天機宮内省ニ參上可致候此旨相達候事

○山梨縣

○甲第四拾九號(十六年九月十二日)

明治十三年(九月)甲第百拾五號ヲ廢シ更ニ私立病院設置規則別紙ノ通之ヲ定ム

但從前既設ノ私立病院ハ此規則ニ據リ來ル十一月卅日限リ更ニ出願許可ヲ受クヘ

右布達候事

私立病院設置規則

第一條

私立病院一人或ハ數人ノ私財ヲ以テ設置セントスルモノハ后ニ示ス書式ニ

從ヒ左ノ諸項ヲ具シ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 設置ノ位地

二 名稱

三 院則

四 院長已下醫員履歷

五 院長已下醫員給料

但シ一人或ハ數人ノ醫師結社設立ニテ給料ヲ不定モノハ記スルニ及ハス

六 院費出納ノ豫算

第二條 私立病院ハ必ラス左ノ醫員ヲ備フヘシ

十六年九月

山梨縣

院長

一人

診察醫

二人以上

調劑生或ハ助手ノ類

三人以上

院長及診察醫ハ醫術開業免許証ヲ有スルモノニ限ル

第三條 第一條ノ院則ヲ改正セントスルトキハ更ニ伺出テ許可ヲ受クヘシ其他同條

ノ各項ニ變更アルトキハ其都度届出ヘシ

但シ診察醫以上ノモノヲ新ニ雇入ルトキハ履歷書並ニ免狀ノ寫ヲ添付スヘシ

第四條 私立病院ヲ廢止シ又ハ其業務ヲ休停定例休スルトキハ其官所轄郡役所ヲ經

テ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 此規則ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿六條ニ據リ處分セラレヘシ

第六條 前條ノ處分ヲ受ケタルトキ又ハ其業務ニ關シ不正ノ所爲アリト認ムルトキ

ハ縣廳ヨリ其病院閉止ヲ命スルコトアルヘシ

私立病院設立願書式

一 私立病院位置

何郡何町何番地

一名稱

私立何々病院

一 院則

患者診察ノ手續入院料藥價診察料差等ノ類

一 院長以下職員履歷

何某ニ從ヒ何科修業何々醫學校卒業何月日開業免狀受領或ハ何地ニ於テ醫術開業及官途出身賞罰等ノ類

一 院長以下給料

院長 一ケ月 金 何圓

院 長 一ケ年 金 何圓

何 々 一ケ月 金 何圓

何 々 一ケ年 金 何圓

一 院費出納豫算

一ケ月 出納ノ見積概略

一ケ年 出納ノ見積概略

右之通設立仕度此段奉願候也

何郡何町何番戶住居(寄留)
(何縣何國何郡何町何番戶)
華族或ハ平民

何職 何業

何ノ 誰 印

年号月日

十六年九月

山梨梨

九

(數人ノ結社ニナル
モノハ連署スヘシ)

右(町村)衛生委員

何ノ

誰ノ 印

右町戸長

何ノ

誰ノ 印

(設立人居住地ト病院設立地ト異ナルハ
設立地ノ戸長衛生委員ニ於テ連署スヘシ)

山梨縣令何誰殿

○甲第五拾號(九月十三日)

明治十三年甲第拾五號ヲ以テ聯合村ノ義及布達置候内今般東八代郡澗川村下曾根村ノ聯合ヲ分離シ各別ニ戸長ヲ置ク

右布達候事

○甲第五拾壹號(九月十五日)

自今醫師ニシテ藥舖ヲ兼テ藥舖ニシテ醫師ヲ兼ヌルヲ禁ズ
但從前兼業ノモノハ本月卅日迄ニ其一方ヲ廢シ届出ツヘシ

右布達候事

○甲第五拾貳號(九月十九日)

寺院舊境内ニ係ル從前檀家共葬ノ墓地及一村若クハ一部落共葬ノ墓地並今後新ニ許可ヲ受ケタル共葬墓地ノ外從來宅地又ハ田畑畔際及山野等ニ設ケアル單用若クハ數人共有ノ墓地ニ於テ埋葬候儀相成ラス

右布達候事

○甲第五拾三號(九月廿五日)

當縣下ノ者ニシテ他府縣ニ於テ貸坐敷及藝娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ願出テ添翰ヲ受クヘシ

右布達候事

○甲第五拾四號(九月廿五日)

本縣々會議員ノ内病氣其他ノ事故ニ依リ退職セシモノ左之通ニ候條來十月中ニ後任撰舉會ヲ開クヘシ

右布達候事

- 東山梨郡 初鹿野市右衛門
- 西八代郡 藥袋 義一
- 南巨摩郡 望月 富潤
- 中巨摩郡 三神 有長

○甲第五拾五號(九月廿五日)

當縣下富士川釜無川笛吹川各筋左ノ場所ニ内務省土木局於テ量水標建設相成候條標柱十間以内ニ於テ游泳又ハ漁業ヲ爲シ及ヒ船筏等ヲ繋クヲ禁ス
右布達候事

富士川筋量水標位置

南巨摩郡 猷澤村 地内	第 五 番
全 郡 切石村 地内	第 二 番
全 郡 身延村 地内	字 竜ヶ鼻
全 郡 陸合村 地内	字 伊勢ノ岩
西八代郡市川大門村 地内	字 押切
全 郡 大河内村 地内	字 關谷
全 郡 榮村 地内	第 一 番
北巨摩郡 鹽崎村 地内	字 落合
中巨摩郡 龍王村 地内	字 重箱岩
中巨摩郡 二川村 地内	荒川落合

○乙第七拾貳號(九月廿五日)

郡 役 所

種痘醫規則第六條ニ據リ種痘醫ヨリ差出シタル種痘人員表送達ノ義明治十四年六月乙第四拾五號ヲ以相達置候處本年乙第四拾三號達ニ據リ一郡表差出候ニ付テハ自今原表ハ送達ニ不及候條此旨相達候事

○乙第七拾三號(九月廿九日)

郡町村役所

陸軍恩給令改正海軍恩給令制定別紙之通被相達候條爲心得此旨相達候事

○陸軍恩給令

陸軍恩給令目錄

第一章 總則

第二章 恩給及ヒ増加

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第四章 服役年算則

第五章 從軍年算則

第六章 恩給支給順序

第七章 賑恤金

第八章 給助金

陸軍恩給令

第一章 總則

第一條 陸軍恩給ハ陸軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

一 退職恩給 二 免除恩給 三 寡婦(孤兒)扶助料 四 賑恤金 五 給助金

第二條 退職恩給免除恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ定限ノ年齢ニ達スレハ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左

如シ	會計監督	軍醫監	藥劑監	六十
憲兵大中佐	會計副監督	軍醫正		五十七
藥劑正	馬醫監			
步騎砲工輜重兵大中佐	會計一等軍吏	憲兵少佐	一等軍醫	五十四
會計監督補	一等馬醫			
一等劑官	憲兵大尉	會計二等軍吏	二等軍醫	五十一
步騎砲工輜重兵少佐	二等馬醫	砲工兵上等監護		
二等劑官	憲兵中少尉	會計三等軍吏	三等軍醫	四十八
步騎砲工輜重大尉	二等馬醫	軍樂長	砲工兵監護	諸工下長
三等劑官	砲兵監守	諸工長		
砲兵監守	憲兵中少尉	會計書記		四十五
步騎砲工輜重兵中少尉	憲兵下士	軍樂次長軍樂手		四十
看護長	馬醫生	會計卒		三十五
步騎砲工輜重兵下士	憲兵卒			
看病卒	樂生			
步騎砲工輜重兵卒				

第四條 軍人定期ノ年齢ニ達スト雖トモ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特拔又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトヲ得但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 上長官士官進士官未ダ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘザルヲ認メタル時ハ士官以上ハ陸軍卿准士官ハ其所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム
 一 公權停止ノ時
 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時
 三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受ケル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死没ノ日(戰地等ニテ死没ノ者ハ陸軍官憲ヨリ報告ノ日)ヨリ一箇年間願出サル者ハ其權利消絶ス「恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以テ上其金額ノ受領ヲ怠ル時ハ其怠リタル年間ノ金額ハ之ヲ給セス

第九條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ陸軍卿ニ上申ス可シ若シ其期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及增加
 第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定期ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若シハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス「戰闘

及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メニ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤勉ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖トモ亦之ヲ給ス其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 免除恩給ハ下士及ヒ卒服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ疾病ノ爲メ免官若シハ免役スル者ニ之ヲ給ス前條第二項ニ掲クルカ如キ傷痕疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク服役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ免官若クハ免役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖トモ亦之ヲ給ス其免除恩給ノ額ハ十一年ヨリ卅九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニヨル

第十二條 准士官以上傷痕ヲ受クルト雖トモ尙ホ奉職セシメ後日退職スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷增加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 傷痕疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候トモ詳細之ヲ開陳ス可シ第十四條 傷痕疾病ヲ受ケシ事故及其原因ハ見證々書又ハ公文若クハ查問會議口供

書ノ文字ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第十五條 傷痕疾病不治ノ狀ハ陸軍病院長主任醫官(地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長并ニ主任醫師)ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ其診斷證書ハ傷痕疾病ノ原因症候及ヒ其治療法方ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖トモ陸軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷書ヲ要ス

第十六條 傷痕疾病不治ノ狀ハ軍醫若シハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖トモ其軍務ニ堪ヘサルヤ否ヤハ當該所官ニ於テ檢査判定シ尙ホ監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス可シ陸軍卿ハ更ニ軍醫本部ニ下シテ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十七條 恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但下士以上其官階ニ進ミ未ク進級條例ノ停年最下限ノ半ニ至ラスシテ退職免官ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰鬪若クハ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ或ハ戰地ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第十八條 准士官以上退職恩給ヲ願フ時所管長官ハ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休暇ヲ命ス下士卒免除恩給ヲ願フ時亦該長官同上ノ日ニ於テ直ニ免官若クハ免役スヘシ

第十九條 戰鬪及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用

ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス 一兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者 二前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者 三二肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者 四前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者 五全ク一肢ノ用ヲ失フ者 六前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者

第廿條 傷痕疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キテ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左項ノ期限内ニ願出ル時ハ檢査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フ時ハ現役ヲ離ルノ際其傷痕ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限 一ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年 二二肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第廿一條 寡婦扶助料ハ左ノ項日ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ緣故トニ依テ差アリ 一戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依テ受ケタル傷痕ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルヲ能ハスシテ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メ發病死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シ死歿シタル軍人ノ寡婦 二退職若シハ免除恩給ヲ受ケタル后或ハ之ヲ受ク可キ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦

其扶助料ノ額第一項ニ該ルモノハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第廿二條 戰闘及公務ノ爲メ傷痕ヲ受クルト雖モ其傷痕ニ原因セサル他病ニテ死歿シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第廿三條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第廿一條第一項ヲ適用ス

第廿四條 寡婦ハ陸軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一ケ年以前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ但前妻若シハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查覈ヲ要セス又戰死者ハ傷痕疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セス負傷又ハ發病前ニ婚配セル者ニ限ル

第廿五條 寡婦其家ヲ去リ若シハ再婚スルモ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第廿六條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ孤兒(嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死歿前ノ養子ニシテ男女ニ抱ハテス家名ヲ繼承スル者ニ限ル)ニシテ其家名繼承ノ者ニハ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者ニハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

第廿七條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至ルハ順

次年少者ニ及フ但ニ拾歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ又ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第廿八條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受ク可キ者ニ之ヲ給ス

第廿九條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナシ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍ノ孤兒ナシ尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコトアル可シ其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年輪五拾歳以上其未滿ハ廢疾亦ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死歿ノ際年輪五拾歳以上ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル

第三拾條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ與印セル願書ヲ以テ之ヲ地方廳ニ呈ス可シ其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ者ハ見證書若クハ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷疾疾病ニ基ク者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷證書ヲ證據ニ供ス可シ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ

尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死歿ノ原因ヲ證明ス可シ

第四章 服役年算則

第卅一條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ「一明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ總テ同月ヲ以テ始トス」(但明治四年八月以前ニ勤仕シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシ給與ス「二下士以上ハ其初任當日ヨリ起算ス」三徵兵ハ入營初日即チ毎年四月廿日ヨリ起算ス「四壯兵其他諸種ノ方法ヲ以テ軍籍ニ入りタル者ハ其就役ノ當日ヨリ起算ス」五上長官士官准士官ハ退職恩給ノ願書該長官ヨリ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ヲ以テ終期トス「六下士卒ハ免官免役ノ日ヲ以テ終期トス

第卅二條 十七年未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス「士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第卅三條 海軍軍人轉シテ陸軍々人トナル者ハ海軍服務ノ年月ヲ通算ス又文官轉シテ陸軍々人トナリタル者並ニ陸軍々人ノ現役ニ在ラズシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第卅四條 豫備後備ニ在ルノ月日ハ服役實期ニ算セスト雖ヒ復習ノ外現役ニ徵集スルコトアル時ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第卅五條 退職死後ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第卅六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其歸營以後ノ現役ニ通算ス

第卅七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第卅八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス但其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四拾條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ 一日本國外ノ戰地ニ於テ服役スル時ハ二箇年ヲ增加ス 二出征軍ニ編入セラレ或ハ合圍若クハ臨戰地境內ニ於テ服役セシ時又戰時平時ヲ論セス日本國外ノ地ニ於テ鎮戍ノ軍隊ニ在リシ時及ヒ海戰ニ當リ其船中ニ在リシ時ハ一箇年ヲ增加ス 三海戰ニ當リ海岸防禦ニ從事セシ時ハ半箇年ヲ增加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出征ノ時ト雖ヒ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ陸軍卿上請シテ從軍ニ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖ヒ重複シテ之ヲ算セス但其年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四拾三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ檢閱監督部長ヲ經テ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上請ス 一寡婦(孤兒)扶助料ノ願書ハ居住地々方廳ヨリ內務卿ニ呈シ內務卿之ヲ陸軍卿ニ移シ陸軍卿ヨリ太政官ニ上請ス

第四拾四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏陸軍三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ證ト爲サシム 恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ陸軍卿ハ其恩給ヲ受シ可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四拾五條 退職及ヒ免除恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル 一准士官以上ハ計算書日附ノ翌日 二下士卒ハ免官死後ノ翌日 三寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死去ノ翌日

第四拾六條 恩給及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其ノ金額ヲ交付ス恩給若シハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在

地方廳ニ願出ス可シ若シ期日ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四拾七條 恩給若シハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳恩給登錄寫帖ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報告ス但扶助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ證ト爲サシム

第四拾八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失亡スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下附ス

七章 賑恤金

第四拾九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス 一 下士卒戰鬥或ハ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪エス免官除隊スト雖トモ第拾九條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラズ十箇年分ヨリ多カラザル全額ヲ給ス 二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ十箇年分ヨリ多カラザル金額ヲ給ス 三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスレテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪エス營業ヲ妨グルニ至ルニ及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若シハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨリ多カラザル金額

ヲ給ス 四 扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二拾歳未滿又ハ二拾歳以上ト雖モ癡疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨリ多カラザル金額ヲ給ス

第五拾條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ請願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸軍卿之ヲ銓議シ大政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

第八章 給助金

第五拾一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤糧キノ後免役或ハ免官トナリ恩給若シハ扶助料ヲ賜ハラザル者ニ之ヲ給ス恩給額ハ已號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラザルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス (以下恩給金額表甲乙丙丁戊己之ヲ畧ス)

○海軍恩給令

海軍恩給令目錄

- 第一章 總則
- 第二章 恩給及ヒ増加
- 第三章 寡婦(孤兒)扶助料
- 第四章 服役年算則
- 第五章 從軍年算則
- 第六章 恩給支給順序
- 第七章 賑恤金
- 第八章 給助金

海軍恩給令

第一章 總則

第一條 海軍恩給ハ陸軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス 一 退職恩給 二 免除恩給 三 寡婦(孤兒)扶助料 四 賑恤金 五 給助金

第二條 退職恩給退役恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ定限ノ年齢ニ達スレハ退職退役ニテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左如シ

軍醫大監	主計大監	軍醫中監	六十五
機關大監	機關中監	軍醫少監	六十
軍醫少監	主計中監		
大佐	中佐	大軍醫	中軍醫
大主計	中主計	掌砲上長	水兵上長
機關工上長	機關少監	掌砲長	水兵長
機關工長	樂長		木工長
少佐	大機關士		少軍醫
少主計	下士		
大尉	中尉	少機關士	卒
少尉	軍醫補	主計補	

少尉補 機關士補

三十

第四條 軍人定期ノ年齢ニ達スト雖トモ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特抜又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトアル可シ但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 軍人未ダ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘザルヲ認メタル時ハ海軍卿旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム 一 公權停止ノ時 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受クル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦若クハ(孤兒)扶助料ハ當該軍人死没ノ日(戰地等ニテ死没ノ者ハ海軍官憲ヨリ報告ノ日)ヨリ一箇年間願出サル時ハ其權利消絶ス(恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以上其金額ノ受領ヲ怠ル時ハ其怠リタル年間ノ金額ハ之ヲ給セス)

第九條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ海軍卿ニ上申ス可シ若シ其期限ヲ過

シル時ハ之ヲ受理セズ

第二章 恩給及増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定期ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ海軍郷ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給スル戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メニ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ非常ノ勞働及ヒ困苦ヲ忍ビ職務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖トモ亦之ヲ給スル其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿ノ者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 退職恩給ハ下士退役恩給ハ卒服役實期十一年以上ニシテ定期ノ年齢ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ疾病ノ爲メ退職若クハ退役スル者ニ之ヲ給ス前條第三項ニ掲グルカ如キ傷痕疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク服役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ退職若クハ退役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖トモ亦之ヲ給ス其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ卅九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 准士官以上傷痕ヲ受ケルト雖トモ尙ホ奉職セシメ後日退職スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 傷痕疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候トモ詳細之ヲ開陳ス可シ

第十四條 傷痕疾病ヲ受ケン事故及其原因ハ見證々書又ハ公文若クハ査問會議口供書ノ寫ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第十六條 傷痕疾病不治ノ狀ハ陸軍病院長主任醫官（地方病院ニ於テ治療ヲ受ケン者ハ其院長并ニ主任醫師）ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證明ス可シ其診斷證書ハ傷痕疾病ノ原因症候及ヒ其治療法方ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖トモ陸軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷書ヲ要ス

第十七條 傷痕疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖トモ其軍務ニ堪ヘサルヤ否ヤハ當該所官ニ於テ檢査判定シ尙ホ海軍卿ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ呈ス可シ陸軍卿ハ臨時調査委員ヲ選定シ更ニ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十八條 下士以上恩給ヲ願フ時ハ所管長官其海軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ免役ス可シ

第十九條 凡ソ恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但其官階ニ進ミ未ダ滿十八箇月ニ至ラズシテ退職若クハ退役ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘又ハ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ或ハ戰地若クハ航海中ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ

此限ニアラス

第二十條 戦闘及び戦時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲ノ傷痕ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ
恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用
ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス 一兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡ス
ル者 二前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者 三一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ
至ル者 四前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者 五全ク一肢ノ用ヲ失フ者 六前項ニ等
シキ傷痕ヲ受ケシ者

第廿一條 傷痕疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キテ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重
症ニ趨キタル者左項ノ期限内ニ願出ル時ハ検査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩
給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フ時ハ現役ヲ離ルノ際其
傷痕ノ爲メ服役ノ難キ確定ヲ得タル者ニ限 一ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フ
ニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年 二一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ
兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第廿二條 寡婦扶助料ハ左ノ項日ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死
歿ノ緣故トニ依テ差アリ 一戦闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依テ受ケタル傷
痕ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ非

常ノ勞動及困苦ノ勤務ニ服シ爲メニ健康ヲ害セラレ發病終ニ死歿シ又ハ平時常務
ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シ死歿シタル軍人ノ寡婦 二退職若クハ退役
恩給ヲ受ケタル后或ハ之ヲ受シ可キ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦 其扶助料
ノ額第一項ニ該ルモノハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第廿三條 戦闘若クハ公務ノ爲メ傷痕ヲ受クルト雖モ其傷痕ニ原因セカル他病ニテ
死歿シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第廿四條 戰鬥中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第
廿一條第一項ヲ適用ス

第廿五條 寡婦ハ陸軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一ケ年以
前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月
ノ查覈ヲ要セス又戰死者ハ傷痕疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月
ニ關セス負傷又ハ發病前ニ婚配セル者ニ限ル

第廿六條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スルモハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第廿七條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該
軍人ノ孤兒(嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死歿前ノ養子ニシ
テ男女ニ抱ハラズ家名ヲ繼襲スル者ニ限ル)ニシテ其家名繼襲ノ者ニハ寡婦ト等
シキ扶助料其他ノ者ニハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在

ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

第廿八條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少者ニ及フ但二拾歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戶籍ヲ去リ又ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權利消絶ス

第廿九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受ク可キ者ニ之ヲ給ス

第三十條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍シ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコトアル可シ其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齡五拾歳以上其未滿ハ廢疾亦ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死歿ノ際年齡五拾歳以上ニシテ其戶籍ニ在ル者ニ限ル

第卅一條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戶主二名連署シ其郡區長戶長ノ與印セル願書ヲ以テ地方廳ニ進達ス可シ但恩給登錄寫貼アレハ之ヲ添附ス可シ其夫若クハ父戰死

其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ時ハ死亡報告若クハ他ノ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷痍疾病ニ起因スル者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷書ヲ證據ニ供ス可シ但地方醫師診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死歿ノ原因ヲ證明ス可シ海軍卿ハ之ヲ調査委員ニ下シ其實ヲ調査セシメ以テ決定ス

第四章 服役年算則

第卅二條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ「一準士官以上ニテ上長四長及ヒ樂長ヲ除クノ外ハ初任ノ日四上長四長及ヒ樂長以下ハ四等卒及ヒ樂生タルノ日ヲ以テ服役年ノ始期トス」但準士官以上ハ明治四年八月以下下士以下ハ明治二年五月以前準卒ハ海軍定員ニ准セサル以前ハ服役年ニ算入セズ然トモ其以前ヨリ勤仕シタル者ハ其算入期ノ前月ニ於ケル現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス「下士卒以上ハ退職恩給ノ願書ヲ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈スル進達書ノ日卒ハ退役ノ日ヲ以テ終期トス

第卅三條 十七年未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セズ「士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ従事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第卅四條 陸軍軍人轉シテ海軍々人トナル者ハ陸軍服役ノ年月ヲ通算ス又文官轉シテ海軍々人トナリタル者並ニ海軍々人ノ現役ニ在ラズレテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第卅五條 退職若シハ退役免役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第卅六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其復歸以後ノ現役ニ通算ス

第卅七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第卅八條 戰時處獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シ之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス但其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四拾條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ 一日本國外ノ戰役ニ從事中ハ二箇年ヲ增加ス 二出征軍ニ編入中合圍若シハ戰地境內ニ服役中ハ一箇年ヲ增加ス 三戰時平時ヲ論セス外國航海中ハ半箇年ヲ增加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスレテ一時出征ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ陸海軍卿上請シテ從軍ニ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四拾三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス 一寡婦若シハ(孤兒)扶助料ノ願書ハ居住ノ地方廳ヨリ內務卿ニ呈シ內務卿之ヲ海軍卿ニ移シ海軍卿ヨリ太政官ニ上申ス

第四拾四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏海軍三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ證ト爲サシム 恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ海軍卿ハ其恩給ヲ受シ可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四拾五條 退職及ヒ退役恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル 一下士以上ハ計算書日附ノ翌日 二卒ハ免役ノ翌日 三寡婦若シハ(孤兒)扶助料ハ當該軍人死歿ノ翌日

第四拾六條 恩給扶助料ハ一月四月七月十月ニ於テ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其ノ金額ヲ交付ス恩給若シハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在

地方廳ニ出願ス可シ若シ期日ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス
第四拾七條 恩給若シハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳恩給登錄寫
帖ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省海軍省ニ報告
ス但扶助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ證ト爲
サシム

第四拾八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ亡失スル時ハ速ニ
其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四拾九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス一 下士卒戰鬪或ハ戰地ニ於テ
公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ニス免官除隊スト雖トモ第二十條末項ヨリ輕
傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第五項ノ一箇年分ヨ
リ少カラズ十箇年分ヨリ多カラザル全額ヲ給ス 二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾
病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カ
ラス十箇年分ヨリ多カラザル金額ヲ給ス 三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未
滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ニス營業ヲ妨クルニ至
ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若シハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階
ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨリ多カラザル金額

ヲ給ス 四 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死
者ニ依リ生活セルニ拾歳未滿又ハ二拾歳以上ト雖モ癱疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ救
育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨ
リ多カラザル金額ヲ給ス

第五拾條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ請願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ海軍卿之ヲ銓議シ
太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

第八章 給助金

第五拾一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤續キノ後罷役或ハ免官
トナリ恩給若シハ扶助料ヲ賜ハラザル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル但懲
戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラザルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス
〔以下恩給金額表甲乙丙丁戊己之ヲ畧ス〕

○告示第百三拾九號(九月一日)

- 一新潟縣管下越後國古志郡西中野俣村戸長役場備置(明治十五年十二月以前ニ係ル)
- 地所建物賣買質入書入公証割印簿
- 一大分縣管下豐後國速見郡鶴見村戸長役場備置(明治六年一月ヨリ同十五年七月一
日ニ至ル)地所建物質入書入賣買讓渡公証割印帳
- 一同縣同國同郡南石垣村北石垣村戸長役場備置(明治六年一月ヨリ同十五年五月ニ

至ル)地所建物船舶質入書入賣買讓渡公証割印帳
 一 同縣同國日田郡竹田村戸長役場備置(明治十三年一月ヨリ同十五年十二月ニ至ル)
 地所建物質入書入賣買讓渡公証割印帳
 一 愛媛縣管下伊豫國風早郡(中須賀村片山村夏目村菖木村)戸長役場備置(明治七年ヨリ同十四年ニ至ル)地所質入書入公証割印帳
 一 同縣管下讚岐國山田郡坂元村戸長役場備置(明治十四年二月以前ニ係ル)地所建物賣買讓渡質入書入公証割印帳
 一 同縣管下伊豫國伊豫郡德丸村出作村戸長役場備置(明治十五年十二月三十日以前ニ係ル)地所建物質入書入公証割印帳
 右帳簿紛亂錯雜及鼠害ノ爲メ更正候ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ本月廿日第二項ヨリ第四項迄來ル九月三十日第五項ヨリ第七項迄ハ來ル十月卅一日限リ該村役場へ可申出若シ右日限中何等不申出ニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事
 ○告示第百四拾號(九月一日)
 一 愛知縣管下三河國東加茂郡(椿立村大藏連村綾渡村)聯合戸長役場備置(明治十五年一月ヨリ同年七月ニ至ル)地所質入書入公証割印帳
 一 愛媛縣管下桑村郡大野村宮ノ内村戸長役場備置(明治十五年分)地所建物質入書入

公証割印簿

一 青森縣管下陸奥國北津輕郡沖村舊戸長役場備置(明治十一年一月ヨリ同十六年六月ニ至ル)地所建物質入書入公証割印簿
 一 同縣同國同郡(毘沙門村長富村嘉瀬村)舊戸長役場備置(明治十年ヨリ同十六年六月ニ至ル)地所質入書入公証割印簿
 一 同縣同國同郡(相内村太田村)舊戸長役場備置(明治十四年以前ノ分)地所建物賣買讓渡質入書入公証割印簿
 一 熊本縣管下益城郡(境村大窪村永富村原町村名越谷村古閑村三加村)戸長役場備置(明治十三年十二月三十一日以前ニ係ル)地所質入書入公証割印帳(明治十四年三月三十一日以前ニ係ル)建物質入書入公証割印帳
 右帳簿紛失若シハ紛亂錯雜ノ爲更正ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ本月三十日第二項ハ來ル十月十日第三項ヨリ第五項迄ハ來ル十月十五日第六項ハ來ル十月三十日限リ該村戸長役場(第三項ハ同郡第六組第四項ハ同郡第十五組第五項ハ同郡廿組戸長役場)へ可申出若シ日限内何等申出サルニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事
 ○告示第百四拾壹號(九月一日)
 一 廣島縣管下安藝國高田郡上根村戸長役場備置(明治九年一月ヨリ同年十二月ニ至

ル)地所書入公証割印簿(明治十三年一月ヨリ同年十二月ニ至ル)地所書入公証割印簿

一富山縣管下越中國射水郡(二十六町村柳瀬村柳瀬新村)戸長役場備置(明治十五年六月以前ニ係ル分)地所並家屋書入公証割印簿

一福井縣管下越前國丹生郡鳥井村戸長役場備置(明治十六年七月以前ニ係ル分)地所建物賣買讓渡質入書入公証割印簿

右帳簿紛失若シハ紛亂錯雜ノ爲メ更正ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ本月廿日第二項第三項ハ同三十日限リ該村役場へ可申出若シ右日限内何等申出サルニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

○告示第四百四拾貳號(九月一日)

一宮城縣管下盤城國亙理郡(高屋村鷺屋村藏村)聯合戸長役場備置(明治十四年一月ヨリ同年十二月ニ至ル)地所建物賣買質入書入公証割印簿

一岡山縣管下哲多郡(蚊家村田淵村大野村)戸長役場備置(明治十六年二月十五日以前ニ係ル)地所建物船質入書入公証割印簿

一同縣管下下道郡岡田村戸長役場備置(明治十二年十二月三十一日以前ニ係ル)地所建物船質入書入公証割印簿

一長崎縣管下肥前國北高來郡(小野村小野島村川内町村長野村)戸長役場備置 明治

十二年十二月三十一日以前ニ係ル)地所質入書入公証割印帳

右帳簿紛失若シハ紛亂錯雜ノ爲メ更正ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ本月三十日第二項ヨリ第四號迄ハ來ル十月十五日限リ該村役場へ可申出若シ右日限内何等申出サルニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

○告示第四百四拾三號(九月一日)

明治十一年七月十七日

持主

甲斐國巨摩郡御影村野牛島第四拾五番

吉岡喜八

一田三畝五步 外九步 畔代

地價拾八圓八拾四錢貳厘

前記地券証昨十五年七月十七日以前於自宅紛失ノ旨届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出ヘシ此旨告示候事

○告示第四百四拾四號(九月一日)

明治十一年五月十四日下付

持主

甲斐國山梨郡八幡村市川第三千六百十四番

丸山勝造

一畑三畝廿六步

地價八圓九拾三錢

同

同第三千六百拾五番

地價拾貳圓

同

人

前記地券証本年六月一日以前於自宅紛失ノ旨届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出ヘシ此旨告示候事

十六年九月

山梨縣

四十一

署へ届出へ此旨告示候事

○告示第四百四拾五號(九月四日)

明治十二年八月七日下午附
甲斐國八代郡錦村二ノ宮第千六百四拾貳番

持主 雨宮倉吉

一畑四畝拾八步 地價拾圓九錢貳厘

前記地券証本年四月十五日以前於自宅紛失ノ旨届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出へ此旨告示候事

○告示第四百四拾六號(九月四日)

明治十六年十二月廿三日下午附
甲斐國山梨郡住吉村上組第九百八拾貳番

持主 坂本敬次

一畑貳畝拾七步 地價三圓四拾四錢三厘

前記地券証本月十日以前於自宅紛失ノ旨届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出へ此旨告示候事

○告示第四百四拾七號(九月四日)

本縣巡查吉村忠哉ハ豫テ渡置本縣第貳百八號印鑑并手帳客月廿五日北都留郡上ノ原驛旅人宿業上原清兵衛方止宿中被窃取候旨届出候條右品所持ノ者見當リ候ハ、最寄警察署へ届出へ此旨告示候事

○告示第四百四拾八號(九月十日)

明治十一年八月廿八日下午附
甲斐國八代郡岡村第貳千七百七番

持主 高橋由右衛門

一林五畝拾步 地價壹圓六錢七厘

右地券証昨十五年十一月廿一日以前於自宅紛失

明治十二年三月八日下午附
甲斐國八代郡豐富村高部第千五百七拾四番

持主 渡邊甚右衛門

一畑貳反四畝步 地價六拾三圓六錢貳厘

同 同第千八百八番 地價五拾六錢貳厘

同 一芝地八畝壹步 地價拾三錢壹厘

同 同第千八百拾番 地價拾六圓六拾五錢三厘

同 一田四畝拾貳步 地價貳拾九錢四厘

同 同第千九百貳拾三番 同

同 一芝地四畝六步 同

同 同第千九百貳拾四番 同

同 同第千九百貳拾四番 同

一芝地廿五步 地價五錢八厘 同 人

同第貳千百壹番 同 人

一芝地五畝七步 地價二拾六錢六厘 同 人

右地券証本年七月二日以前於自宅紛失 同

前記之通届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ可届出此旨告示候事

○告示第四百四拾九號(九月十日)

第一四七六號 東八代郡大野寺村

一牛馬賣買免許鑑札 但本人携帶ノ儘失踪 雨宮與兵衛

第一四七〇號 但前同斷 全郡相與村 金子傳之丈

一全 但前同斷 全郡相與村 金子傳之丈

右之者共へ下附致シ置タル標記之鑑札前記之通親族之者ヨリ届出候ニ付右記號名前

之鑑札所在見聞之者ハ速ニ最寄警察署へ届出ヘシ此旨告示候事

○告示第四百五拾號(九月十四日)

明治十五年七月廿六日下附第九千百七拾三號 東八代郡奈真原村平民

一職獵免狀 石原 伴右衛門

右之者標記之免狀携帶本年七月十五日失踪候旨届出候ニ付右ノ免狀所持ノ者所在見

聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出ヘシ此旨告示候事

○告示第四百五拾壹號(九月十四日)

明治十年十二月廿五日下午附 持主 石井忠太郎

甲斐國山梨郡里垣村東光寺第六百三拾壹番 一畑八畝拾五步 地價貳拾三圓七拾七錢八厘

右地券証昨十五年二月十日以前於自宅紛失

明治十三年五月十一日下附 持主 遠藤又之丈

甲斐國巨摩郡皷澤村第八千七百六拾貳番 一宅地廿七步 地價三圓六錢

右地券証本年七月廿二日以前於自宅紛失

明治十一年三月十八日下附 持主 上野 孫平

甲斐國巨摩郡皷澤村第三千三百七拾九番 一宅地貳拾步 地價三圓八拾六錢七厘

右地券証本年六月廿四日自宅ヨリ村内字本町入迄ノ途中於テ遺失

前記之通届出候條所在見聞候ハ、速ニ最寄警察署へ届出ヘシ此旨告示候事

○告示第四百五拾二號(九月廿二日)

明治十六年度ヨリ内務省ニ於テ縣下富士川及釜無川流域誰崎驛ニ至ル迄ノ間河身改

修工事直轄施行相成候條爲心得此旨告示候事

○告示第四百五拾三號(九月廿六日)

- 一 山口縣管下長門國豐浦郡綾羅木村戸長役場備置(明治六年一月ヨリ同十二年十二月卅一日ニ至ル)地所建物質入書入公証割印簿
- 一 青森縣管下陸奥國東津輕郡(荒川ハツ役 高田 大別田 金濱 上野野木牛館)村戸長役場備置(明治十一年ヨリ同十六年六月ニ至ル)地所建物質入書入公証割印帳
- 一 同縣同國北津輕郡(尾別村高根村薄市村)舊戸長役場備置(明治十一年一月ヨリ同十六年六月ニ至ル)地所建物書入質入公証割印帳
- 一 京都府下綴喜郡天王村戸長役場備置(明治十二年ヨリ同十六年七月ニ至ル)地所建物質入書入公証割印帳
- 一 同府下丹後國熊野郡(湊宮村薄井村神崎村大向村葛野村)聯合戸長役場備置(明治十二年七月以前ニ係ル)地所書入公証割印帳
- 一 同府下同國同郡(葛野村神崎村)戸長役場備置(明治十二年七月以前ノ分)建物書入質入公証割印帳
- 一 同府下同國同郡大向村戸長役場備置(明治十六年十月以前ノ分)建物書入質入公証割印帳
- 一 同府下同國同郡湊宮村戸長役場備置(明治十二年七月以前ノ分)船舶書入公証割印帳
- 一 愛媛縣管下伊豫國西宇和郡(三崎浦與多浦佐田浦大佐田浦井野浦名取浦大久浦)帳

田部浦 神崎浦 釜本浦 平磯浦 二名津浦 明神浦 松浦 事浦 正野浦)戸長役場備置(明治十五年八月三十一日以前ニ係ル)地所建物船舶書入質入公証割印簿

一 同縣同國喜多郡(森山村成能村)戸長役場備置(明治十六年六月二十日以前ニ係ル)地所建物船舶質入書入賣買讓渡公証割印簿

一 同縣同國大内郡(吉田村川服村)戸長役場備置(明治十一年十二月卅一日以前ニ係ル)地所建物質入書入公証割印簿

右帳簿紛亂錯雜、爲メ更正ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ來ル三十日第二項以下ハ來ル十月卅一日限リ該村役場(第二項ハ同郡常川村第三組第三項ハ同郡薄井村第九組戸長役場)へ可申出若シ右日限内何等申出サルニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該府縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

○告示第百五十四號(九月廿七日)

- 一 廣島縣管下安藝國山縣郡上殿村戸長役場備置(明治十五年十二月卅一日以前ニ係ル)地所建物書入質入並ハ賣買讓渡公証割印簿
- 一 同縣管下備後國御調郡(下津村江木村筋原村)戸長役場備置(明治十四年十二月卅一日以前ニ係ル)地所建物書入質入公証割印簿
- 一 神奈川縣管下大住郡戸田村戸長役場備置(明治八年ヨリ同十六年八月卅一日ニ至ル)地所建物買讓渡質入書入公証割印簿

十六年九月

山梨縣

四十七

一鹿兒島縣管下拾良郡(小山田村西別府村)戸長役場備置(明治十二年十二月ヨリ同
十六年八月ニ至ル)地所建物質入書入公証割印簿

右帳簿紛失燒失其他紛亂鼠害之爲メ更正ニ付該公証ニ關係ノ者第一項ハ本月三十日
第二項ハ來ル十月十五日第三項以下ハ來ル十一月三十日限リ該村役場へ可申出若シ
右日限内何等申出サルニ於テハ一切關係ナキモノトシ他へ公証爲取計候旨該縣ヨリ
通知有之候條此旨告示候事

○告示第百五十五號(九月廿七日)
任山梨縣警部長

內務二等屬大島居次郎

明治十六年九月廿二日

右之通 宣下相成候條此旨告示候事

○告示第百五十六號(九月廿七日)

今般陸軍々醫講習生六拾名召募候旨陸軍省ヨリ達有之候條志願ノ者ハ別冊檢査格例
及志願者心得之通相心得同講習生假規則第拾貳條ノ手續ヲ經テ來ル十月十五日迄ニ
軍醫本部ニ出願スヘシ此旨告示候事

但講習生假規則ノ義本年乙第四拾七号ヲ以テ町村役所へ相達置候條同所ニ於テ承
合スヘシ

軍醫講習生入學檢査格例

第一條 軍醫講習生檢査ヲ分テ三則トス

第一則 體格 第二則 學科 第三則 術科

第一則ノ檢査ハ年齡三十年以下ニシテ體質強健ノ者ナルヘシ但年齡ヲ算スルニハ
明治十六年十月ヲ以テ期トス

第二則ノ檢査ハ左ノ科目トス 其一 理學 其二 化學 其三 解剖學 其四 生理學
其五 病理學 其六 藥劑學 其七 內科學 其八 外科學

第三則ノ檢査ハ左ノ科目トス 其一 內科病者理化學的診斷但實地口述 其二 外科
病者理化學的診斷但實地口述 其三 外科器械用法及 帶術但實地口述 右三則
ノ外外國語學及ヒ高等ノ檢査ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許可ス

第二條 檢査ノ順序ハ第一則合格ノ上第二則ニ及ヒ第二則合格ノ上第三則ニ及フ
第三條 前各條ノ檢査ハ軍醫本部ニ於テ之ヲ爲スト雖モ時宜ニ依リ各地陸軍病院ニ
於テ爲サシムルコトアリ

軍醫講習生入學志願者心得

第一條 軍醫講習生ハ該假規則第二條ニ據リ陸軍部内及ヒ華士族平民中入學志願ノ
者ヨリ檢査ノ上之ヲ採用ス

第二條 講習生志願者ノ檢査ハ總テ軍醫本部ニ於テ之ヲ爲スト雖モ時宜ニ依リ各地
陸軍病院ニ於テ之ヲ爲サシムルコトアリ

十六年九月

山梨縣

但陸軍部内ノ其検査場ニ往復スルトキハ給與概則第拾壹章第拾八條ニ依リ旅費日當金三拾錢滞在日當金貳拾八錢ヲ支給ス華士族平民ニ在テハ検査場往復ノ旅費並ニ滞在費ハ一切自辨タルヘシ

第三條 検査場開設ノ月日並ニ其場所等ハ軍醫本部ヨリ直ニ近衛鎮臺又ハ各官廳及ヒ府縣廳或ハ郡區役所へ通達スヘシ

第四條 講習生志願ノ者ハ必ス検査ノ時日ニ先チ軍醫本部或ハ指示スル地ノ陸軍病院ニ出頭シ指揮ヲ受ツヘシ

第五條 東京ニ於テ検査合格ノ上採用スルトキハ直ニ本人ニ達シ入學セシム而シテ陸軍部内ノ者ハ其旨趣ヲ軍醫本部ヨリ各所管ニ通報スヘシ

第六條 各地ニ於テ検査合格ノ上採用スルトキハ軍醫本部ヨリ各所管へ通報スヘシ然ルトキハ定規ノ宿泊證書ヲ附與シテ上京セシムヘシ華士族平民ニ在テハ府縣廳ヲ經テ本人ニ達シ上京セシム若京ノ上直チニ軍醫本部ニ届出ツヘシ

但シ華士族平民ニ在テハ若シ病氣其他ノ事故ニテ滞在大ルトキハ該證書(病氣ハ醫師ノ診斷書川支等ナレハ)ヲ持參スヘシ故ナク滞在大ルトキハ滞在大當チ其地ノ局長或ハ部長ノ證書ヲ給セサルハ勿論其事柄ニ依リ入學ヲ許サ、ルノミナラス旅費ヲモ給セサルモノトス

第七條 上京ヲ命ゼン者ハ給與概則第拾壹章第廿壹條ニ依リ旅費日當ハ金四拾錢ヲ

給シ滞在日當ハ金貳拾八錢ノ割ヲ以テ里程ニ應シ若干日分ヲ假給シ着京ノ上精算支給スヘシ

第八條 陸軍部内ヨリ志願ノ者ハ該假規則第拾壹條ニ從ヒ華士族平民ヨリ志願ノ者ハ同第拾貳條ニ示ス所ノ手續ヲ爲スヘシ

給シ滞在日當ハ金貳拾八錢ノ割ヲ以テ里程ニ應シ若干日分ヲ假給シ着京ノ上精算支給スヘシ

第八條 陸軍部内ヨリ志願ノ者ハ該假規則第拾壹條ニ從ヒ華士族平民ヨリ志願ノ者ハ同第拾貳條ニ示ス所ノ手續ヲ爲スヘシ

學 事 報 告

○山梨縣學事報告第廿八號 (明治十六年九月七日發行)
今般明治十五年管内學事年報刷行候ニ付郡役所及公立小學校へ壹部宛配付ス
右報告ス

○山梨縣學事報告第廿九號 (明治十六年九月廿五日發行)
來ル十月初旬ヨリ南、北、都留、東、西、山梨、東八代五郡小學校生徒ノ獎勵試験ヲ施行
ス但試験ノ場所及日割等ハ郡役所ヨリ通報セシムヘシ
右報告ス

○山梨縣學事報告第三十號 (明治十六年九月廿八日發行)
一管内小學校生徒後期大試験ノ義來ル十月廿日ヨリ施行スヘキニ付受試生員取調所
轉郡役所ヲ經テ來ル十月十日限リ縣廳へ申出ヘシ
一各聯學區ニ於テハ後期試験委員ヲ撰舉シ當撰者ノ姓名ハ前項同様届出ツヘシ
右報告ス

○山梨縣學事報告第三十一號 (明治十六年十月三日發行)
今般東山梨郡第十四學區學務委員ヨリ該學區内學事ノ實況左ノ通申報セリ
右報告ス
東山梨郡第十四學區學事實況ノ申報

東山梨郡第十四學區學務委員

依 鶴田 三左衛門 田 忠 策

右者謹而本學區之學事實況ヲ別紙ノ通り申報仕候山梨縣管下ノ學區ヲ數フレハ二百十有餘ノ多キニ登ル其中ニ付テ一局部ノ事情ヲ陳述スルハ些末ノコトニ屬スルカ如シト雖モ就業以來ノ經驗スル所ヲ以テ默止スルニ忍ヒサルナリ抑モ學事ノ盛衰ハ人文ノ開否ニ親密ナル關係ヲ有スル者ニテ學事ノ盛ノナルキハ隨テ人文開ケ學事ノ衰フルトキハ尋テ人文ノ微ナルコトハ譬へハ光リ強ケレハ物影ノ濃ニシテ光リ弱ケレハ物影ノ淡ナルカ如シト存知候每學區ニ於テハ例規ニ從テ每歲學事年報ヲ具申スト雖トモ只ク明示セル所ノ雛形ニ就テノミ具申スル者ナレハ實地ノ如何ヲ知ルニ足ラサルヘシ是レ予輩ニ於テハ經驗スル所ヲ默止スル能ハスシテ本學區ノ實況ヲ詳細ニ申報スル所以ナリ然リト雖モ時勢ニ隨テ之レカ狀況ノ變遷スルハ自然ノ定數ナルニ依リ復々以テ申報スル所アラント欲ス

一我第十四學區日下部村ハ明治八年三月ニ小原西分小原東分七日市場下井尻ノ四ヶ村ヲ合併シタル者ナリ照袞ハ東西十七町南北廿五町ニシテ坪數(社寺境内荒地墓場等ヲ除)人員(寄留)モ以下同シ學齡兒童就學不就學ノ割合ヲ掲レハ左ノ如シ
○坪數六十六万六千五百八十二坪 但シ坪數五百二坪六十七五強ニ付一人
○人員千五百二十五人

○學齡兒童二百九十壹人

但シ人員十人ニ付一人九〇八強

○就學二百三十一人

但シ學齡童十人付七人九三八強

○不就學六十八人

但シ就學十人ニ付二人五九七強

一學校ハ立公日下部學校一ヶ所ニ付明治十四年八月五日開校ナリ其便宜ニヨリ從前ニアリテハ小原西分、加納岩學校ノ所屬ニシテ小原東分、七日市場、下井尻、後屋敷學校ノ所屬シリト雖トモ各々之ヲ脫シテ本校ニ獨立セリ所在地ハ小原東分西願寺ヲ借用シ居レリ距離ハ些少ノ差異アリト雖モ殆ント村内中央ノ場所ナリ嘗テ校舍ヲ立ルノ評議アリシレトモ小原西分ハ小原東分ノ南端ニ置カント欲シ七日市場下井尻ハ其ノ北端ニ置カント欲シテ(小原東分ハ異儀ナシ)互ニ見込ノ相合ハサルヨリ延遷シテ今日ニ至レリ而シテ昇校生徒ハ該時ニ比スレハ漸次ニ増加シテ余程ノ差ヲナスト雖トモ校舍ノ狹隘ナルヨリ煙中ニ咽フカ如キノ感アルヲ以テ戶長學務委員ヨリハ屢々校舍建築ノコトヲ村會議員等へ商議スト雖トモ徒ラニ商議スルニ止ツテ之レカ着手ノ場合ニ至ラズ然ル所以ノ者ハ全ク一般人心ノコトニ歸嚮セザルト金融壅塞等ノ障礙ヲナスニ由ルモノ、如シ

一教員ハ五名トス何レモ勉強ナリ

一就學者ハ二百三十一人外ハ學齡外生徒アリト雖モ毎日昇校スル所ノ者ハ凡ソ百三十四名(男百十四名)ニ過キス如此シナルヲ以テ學務委員ニ於テハ悉ク來校ヲ促ス

ノ違アラス而シテ男女トモ六七八歳ノ者多クシテ十二三歳ノ者少シ右ハ成年スルニ随テ山稼キ或ハ製絲場ニ入レテ利ヲ營ントスルニ由ルナリ又六歳以下ノ學齡外生徒(十二歳以上ノ學齡外生徒ナシ)ニ至テハ多クハ學科ヲ修ムルヨリハ教員ヲシテ兒守ヲサシメントスル意ニ出テタル者ナリ

一昇校生徒ノ多キハ毎年二期ノ昇級試験前ヲ以テ最トス右ハ落第センコトヲ懼レテ急ニ勉強心ヲ起スニ由ルナリ而シテ學校ニハ大祭日日曜日ト夏期冬期休日ナシト雖モ舊五節旬等ニ當ルトキハ昇校生徒ノ甚タ少キヲ常トス以テ舊慣ヲ脱去スルノ容易ナラザルヲ知ルヘシ

一就學督責規則ニヨレハ疾病或ハ貧窶等ノ者ヲ除クノ外ハ昇校セサルヲ得スト雖モ父兄ハ己レガ都合ヲ謀リテ動モスレハ疾病或ハ貧窶ニアラザルモ殊更ニ然ルガ如ク言ヒナシテ之ヲ免レントス然ルヲ強テ規則ニヨラシムルキハ五月蠅サク思フノミナラス却テ學務委員ヲ怨望スル等ノコトアルカ故ニ委員ニ於テハ之レカ施行ト勸奨トニ一層ノ配慮ヲ要スルナリ

一人意ノ氣質ニ至テハ各人各異ニシテ之ヲ喻ヘハ森々トメ地上ニ羅列スル所ノ萬物一トシテ其形ヲ同フセサルカ如クナルヲ以テ之ヲ詳悉スル能ハサレト今日ニ至ルモ既往ノ習慣ヲ脱セシメテ書ハ以テ姓名ヲ記スルニ足ルレハ可ナリト思惟スル者アリ甚シキニ至テハ授業方法ノ恰當ナルヲ知ラスシテ一概ニ學校ヲ非毀スル者

ナキニシモアラス故ニ學事ノ退歩ニ注意シ機ニ臨ミ變テ制シテ普及ヲ謀ラント欲スルナリ

- 一學務委員ニ於テ最モ困難トスル所ノ者ハ資本金利子ノ徵收ヲ以テ第一トス何ソトナレハ之ヲ出スニ吝カナルハ一般ノ風習ニシテ容易ニ納メサルカ故ニ教員ノ給料ヲ始メトシテ諸般ノ支拂ヒヲナスコト能ハサレハナリ
- 一ヶ所ノ公立學校ニテモ其費用ヲ厭フノ状態ナレハ幼稚圖書館等ノ設置ハ望ムヘカラザルカ如シ況ンヤ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ之ヲ設置スル者ヲハ望ムヘカラザルニ似タリ假令ヒ之ヲ設置スルモ隆盛ヲ致スノ見込ナキナリ
- 一學務委員ヨリ本年五月通常村會へ問フテ學校資本金ヲ廢止シテ其利子ヲ徵收セス協議費ヲ以テ支辨スルコト、及ヒ生徒授業料ヲ從前ノ半額ニ減殺シタリ依テ之レカ如何ヲ熟視スルニ生徒ハ勿論其他ニ至ルマテ皆テ欣喜ノ有様ナリ
- 一小原東分ノ壯年輩ハ閑暇ノ時アレハ書籍ヲ携テ相ヒ會集シテ素讀或ハ講義坏ヲナシテ怠ラス昔シ孟軻氏ハ慈母三遷ノ教ヲ慕リ終ニ學養ノ傍ニ居ヲ占メテ碩學大儒トナリタリト右壯年輩ニシテ如此ナルハ學養ノ其所ニアリテ自然ト之レカ教風ニ化シタルナラソカ其他ニ至テハ發句等ヲ稽古スル者多シト雖トモ沿革ヲ徵スヘキ歴史世教ト爲ルヘキ經書等ニ志ス者ハ稀レナルニ似タリ

附言

抑モ學校ヲシテ旺盛ナラシメントスルニハ充分ナル資本ヲ増殖スルニ非サレハ能ハ
 スト雖モ各校ニテ立テ置ク如ク正金ヲ内ル、ニアラスニテ只該利子ヲ徵收スルノ
 資本金ハ敢テ望ム所ニアラス故ニ本學區ニ於テハ之ヲ廢止セリ何ソトナレハ金若干
 圓ト約スルモ身代ノ榮枯ニ隨テ之ヲ出スニ苦樂ヲ生スルノミナラズ假令ヒ身代ニ榮
 枯ナキモ協議費ヲ以テスルモリハ固ヨリ不納勝ノ者ナレハナリ今日ニ至ツテハ大抵
 一學科ヲ修スルノ急務ヲ知ラサル者ナシト雖モ何如セン家産ノ等級ニ應シテ出大所
 ノ學費即チ協議費スラ嫌惡スルノ狀体ナキ能ハサルヲ左レトモ歿レテ願念スレハ鮮
 少ニアラサルナリ本年通常村會ニ於テ議決セシ費額ハ惣合計金七百四拾壹圓五錢ニ
 シテ其内五百三拾壹圓拾五錢ハ(収入トナルヘキ生徒授業料金拾五圓ヲ除)學校費學
 務委員給料等合算ノ費用ニシテ金貳百九拾錢ハ用水堰耕作道橋修繕費衛生費布
 告達費等合算ノ費用トス今現戶數三百壹戶ヲ以テ學費ヲ除スレハ壹戶ニ付金壹圓七
 拾六錢四六強トナル同ク其他ノ入費ヲ除スレハ壹戶ニ付金六拾九錢七三強トナル之
 ナ比較スレハ學費ハ壹戶ニ付金壹圓六錢七三ノ多額ニ上ガル之レガ費用ヲ厭フノ狀
 体アルモ復タ以テ故ナキニアラザルナリ然レトモ費用ノ一途ニシテ注目セハ樞要ナ
 ル學校ハ到底維持スルコト能ハサルカ故ニ學校資本トシテ協議費中ヨリ毎歲百圓内
 外ヲ徵收シ(徵收スル間ハ困難ナルカ如シト雖モ學校ノ欠シヘカラサルヲ思フテ之
 ナ永遠ニ維持セントスルニハ己ムヲ得ザルナリ)外ニ有志者ノ多少ヲ問ハス正金ヲ

募集シ及ヒ生徒授業料雜収入ヲ積ニ立テ、通常費目ニ用ヒス之ヲ方正ナル銀行或ハ
 會社ニ預ケ其利子ヲ以テ全ク學校ヲ維持スルニ足ルヲ待ツテ校費ノ徵收ヲ絶テ以テ
 宜キヲ制セハ學校ヲシテ盛ナラサラシメントスルモ得ヘケンヤ(此時ニ選ラハ前
 キノ困難ハ却テ困難ニアラザルヲ悟ルヘシ)否ラサレハ右金圓ヲ以テ不動産ヲ買得
 シ収獲ヲ以テ維持スルノ方法ヲ設クヘシ或ハ半額ハ利子ヲ以テシ半額ハ収獲ヲ以テ
 スルモ可ナリ予輩ニ於テハ此他ニ其手段アルヲ發顯セサルカ故ニ時機ヲ觀察シテ之
 レカ實行ヲナサント欲スル也

○山梨縣學事報告第三拾貳號

(明治十六年十月五日發行)

近來小學校生徒ニシテ種々ノ習字帖ヲ用井居ル向モ有之趣ニ候處右ハ兼テ小學校規
 則ニ揭示ノ通徵典館編纂ノ小學習字本ノ外一切習修セシメザル義ニ付教員學務委員
 ハ此旨相心得篤ク注意スヘシ
 右報告ス

令訓

內務省指令

○地方稅ニテ土地買上之儀ニ付新瀉縣伺

(十五年九月十五日)

人民一己ノ所有地ヲ地方經濟ニテ買上學校或ハ病院敷地ニナサント欲スル節ハ公用土地買上規則ニ準シ不苦候哉此段相伺候也

○郡長ヘ分任ノ儀ニ付德島縣伺

(十六年二月廿一日)

受恩典者印紙類賣捌願許可之儀郡長ヘ分任ナルモ不苦哉

○戸長捧給ノ儀ニ付青森縣伺

(十六年八月廿一日)

戸長捧給外ニ委員名稱ニテ別ニ協議費ヨリ給料ヲ受クルモ差支ナキヤ直ク御指揮ヲ乞フ

○監獄費取扱方ノ儀ニ付群馬縣伺

(十六年八月八日)

監獄費國庫地方稅ト區分方ノ儀ニ付テハ明治十四年御省乙第三拾四號御達ニ依リ諸費ヲ混一ニ仕附延囚員ニ割合候處國庫囚徒ノ在監セサル支署外役所等ノ費用モ混一ニ仕附候テハ計算上ニ錯雜不尠且未決監ノ支署ニシテ僅カ輕禁錮拘留ノ刑ニ處セラレシ著アルカ爲ニ其費用ヲ(獄費諸費ヲ云フ)連帶ノ支辨ニ混入スルハ少シク妥當ナラサル候思考候ニ付右支署外役所等全ク國庫囚徒ノ在監セサル處ノ費用ハ地方費ヲ以テ任拂國庫地方稅ノ連帶ニ取扱不苦候哉

十六年九月

令訓

指令(十六年九月七日)
書面伺之趣本支署ヲ問ハス已決因ニ係ル費用ハ總テ混一可仕請事

○土地買上ノ際約定証ノ儀ニ付滋賀縣伺 (十六年八月廿三日)

公用土地買上規則ニ依リ民有地ヲ買上ルハ其本義買上ノ契約ニ屬スル如シト雖トモ人民一般ノ買上ハ異ナル儀ニ付其際ニ於テハ買上ニ屬スル土地ノ所有者ヨリ買上代金ノ領収証ヲ徵スルハ乃チ本人承諾ノ証アルヲ以テ明治十三年第五拾貳號布告土地買賣讓渡規則第一條ニ準スル賣渡証書ハ徵スルニ及ハサル儀ト相心得可然哉
指令 伺之通(十六年九月十二日)

○服務紀律ノ適用ノ儀ニ付青森縣伺 (十六年九月八日)

服務紀律ハ戶長ニ適用ノ儀ト心得可然哉
指令 伺之通(十六年九月十三日)

○藥湯營業ノ儀ニ付福島縣伺 (十五年五月十八日)

藥湯營業免許ヲ得タル者ヨリ其調劑品ヲ買請温度及水量等都テ該營業者ノ方法ニ依ヒ藥湯營業スル者ノ如キハ賣藥請賣同様ノ手續ヲ以テ鑑札下附可然哉此段相伺候也
指令 伺之通(十六年九月十四日)

○戶長商賈營業ノ儀ニ付岐阜縣伺 (十六年八月十日)

明治十五年(十二月)太政官第七拾壹號公達ヲ以テ戶長身分取扱ノ儀改定相成候ニ付テハ御省本年三月三十日付無號御達ニ據リ提燈徽章ノ件官記式ノ件印章ノ件賀表書式ノ件等總テ判任官同様相成候處商賈營業ノ儀ハ明治八年(四月)第六十五號公達第一條但書ノ通被差許候然ルニ玆ニ戶長ニシテ會社ノ株主トナリ且給料ヲ得テ會社ノ事務ヲ取扱度旨御出ル者アリ右ハ等シク商賈營業ト見做シテ可然哉又ハ其給料ヲ得テ事務ヲ取扱フ段ハ客年(七月)第四拾四號公達行政官吏服務紀律第六條ニ據リ縣令ノ許可ヲ得ルニアラサレハ該事務ヲ行フ事ヲ得サル儀ニ候哉相伺候也

指令(十六年九月十七日)
戶長ニシテ會社ノ株主又ハ會社ノ事務ヲ取扱ハ不苦ト雖モ其給料ヲ得ルニ至テハ後段伺之通

○地方衛生會委員任期ノ儀ニ付三重縣伺 (十六年九月三日)

明治十二年(十一月)太政官第五拾五號御達地方衛生會規則第二條公立病院長以下任期ノ義ハ昨十五年二月初木縣御指令ニ照シ本官ノ任免ヲ以テ任期ト心得可然哉一昨十四年(十一月)第六拾六號ヲ以テ地方衛生會規則第二條ニ但書追加相成候ニ付同年四月中郡長貳名會員ニ増加ノ義伺濟ニ候處右ハ公撰委員トモ異ナリ候ニ付年限ヲ定メ改撰セサル方實際ノ便宜ト見認候時ハ前條同様本官ノ任期ヲ以テ任期ト致候モ御差支無之候哉
指令(十六年九月十九日)

書面伺之趣左之通可心得事
第一項 伺之通 第二項 郡長二名任期ノ義ハ滿二ケ年毎ニ改撰ス

○官吏準官吏衛生委員兼務ノ儀ニ付富山縣伺 (十六年九月六日)

官吏準官吏ニシテ町村衛生委員兼務爲致候テモ差支無之哉此段相伺候也
指令(十六年九月廿五日)
書面伺之趣官吏準官吏ハ衛生委員ニ撰舉スヘカラザル義ト心得事
但戶長郵便取扱人等ハ不得止場合ニ於テハ撰舉セシムルコトヲ得ヘシ

○郡書記ヲシテ巡廻訓導ヲ兼務セシムル儀ニ付福島縣伺 (十六年八月廿八日)

第一條 曩ニ屬官ヲシテ教員ヲ兼務セシムルハ不苦哉ノ伺ニ伺ノ通ト御指令相成候處右ニ準據シ郡書記(教員)ノ資格ヲ有スルモノ)ヲシテ巡廻訓導ヲ兼務セシムルモ不苦義ニ候哉

十六年九月

令 訓

三

第二條 前條不苦トセハ郡書記相當月給ノ外巡廻訓導ニ屬スル費途(一郡連合會ニ於テ決シタル費途)ヨリ幾分ノ手當若クハ旅費ヲ支給スルモ不苦義ニ候哉
指令 書面伺之通(十六年九月廿五日)

○拘禁囚徒取扱之儀ニ付空知集治監典獄伺 (十六年八月三十日)
懲役終身トナシ刑ニ處セラレ服役中逃走ノ未更ニ無期徒刑ニ處セラレ候モノ本刑ヲ懲役終身トナシ刑ニ處セラレ無期徒刑ト記載セシテ可然哉果シテ然ラハ監獄則第百九條ニ據リ處分セサルヤ差掛リ取扱上疑義ヲ生シ候ニ付此段相伺候也
指令(十六年九月廿七日)

○地方衛生會委員之儀ニ付鹿兒島縣伺 (十六年八月廿九日)
目今責付ノ醫師ヲ縣會ニ於テ地方衛生會委員ニ撰舉シタル時ハ委員トナシ可然哉
指令(十六年八月廿一日)
責付中ノ醫師ヲ地方衛生會委員トナスハ聞届難

陸軍 省 指令

○徵兵免否之儀ニ付滋賀縣伺 (十六年七月三十日)
茲ニ男女子ヲ有スル伯父アリ豫テ分家ノ見込有之候處明治元年終ニ死亡ス然ルニ今般其遺業ナル者右ノ男女子ヲ携帶シ他ニ分家セント欲ス右ノ條例第百六十條明文外ノ者ニ候ヘハ其長男タル者或ハ徵兵ニ應ジシムヘキ儀トモ相考候ヘトモ其事實ニ於テハ子女子有スル伯叔等分家セシ候例ト敢テ相異候義ハ無之哉可否ノ處分疑似ニ涉リ決兼候ニ付相伺候條御指令被下度候也
指令(十六年九月二日)

伺之樞分家後嗣子ト定メタル其嗣子ハ死役ニ屬シ候儀ト可相心得事

○癩疾不具等ノ者檢査ノ儀ニ付福井縣伺 (十六年八月七日)
徵兵令第廿八條第五項同第卅條第五項ニ當ル癩疾不具ノモノ檢査ノ儀ニ事務條例第百七拾八條ニ揭示有之處同例第百五十一條同第百五十二條同第百五十五條及第百五十七條乃至百五十九條ニ係ル癩疾不具等ノ者ニ在テハ別段檢査スヘキノ明文無之ト雖モ其死否上ニ關係有スルハ右二項ノモノト敢テ異ナラサル儀ニ付該患者前顯第百七十八條ニ準シテ下檢査ノ際其診斷書ト照較シ實際檢査候儀ト相心得可然哉此段相伺候也
指令 伺之通(十六年九月六日)

○軍需徵發ノ儀ニ付和歌山縣再伺 (十六年八月三日)
去ル二月十六日付兵甲第六號伺第六件一郡區内ニ在テ便宜ニ依リ豫シメ二三村乃至四五村ヲ聯合シ一徵發込トナスハ難聞届旨御指令之樞敬承然ルニ其聯合村一戶長役場ノ管理ニ屬スル者ハ尙一村ト同視シ徵發區トナスヲ得ル儀ト相心得候得共一應相伺候條伺分ノ御指揮有之度候也
指令 伺之通(十六年九月六日)

文部 省 指令

○學區内經費共通ノ儀ニ付内務文部兩省兩縣伺 (十六年八月七日)
教育令第九條ノ旨趣ニ基キ御省明治十四年第一號ヲ以テ小學校設置ノ區域並ニ校數指示方御達相成候處右學區内ニ於テハ數小學校アルモ其經費ハ共通スルノ御主旨ナリハ勿論ト被存候處土地ノ情況ニ依リ其止ヲ得ス共通スル能ハサル事情有之向ニ於テハ特ニ之レヲ許可スルモ苦シカラサルハ御省本年四月愛知縣伺ニ御指令ノ旨ニ承知致シ候然ルモ其各部落カ經費賦課徵収等ヲ議定スルニ當リテハ明治十四年

十六年九月 令 訓

第三十八號公布但書ヲ適用致シ可然哉目下差掛リ候事件有之候條電報ヲ以テ至急何分御指揮相成度候也

●指令(十六年八月二十九日)
本月七日附伺止テ得サル事情アツテ一學區內經濟ヲ異ニスルモ學區ノ區域町村ノ境界ト同一ナラザル場合ノ外ハ明治十四年第三拾八號公布但書ヲ適用スルノ限リニアアラヌ尤該學區町村會ノ評決ニ依リ各部落學資ノ賦課徵收法等ヲ異ニスルカ如キハ妨ケナシ

●教員免許狀下附之儀ニ付福井縣伺 (十六年八月廿二日)
小學校教員ハ師範學校卒業證書或ハ教員免許狀ヲ有スルモノハ外ハ任用セサルハ勿論之處爰ニ年滿二十五年以上ノ者ニシテ多年管内小學校ノ教授ニ從事シ相應學力ヲ有シ現ニ生徒ヲ卒業セシメタル實績アリ品行端正ハ勿論類ル學校ノ管理ニ長シ最區内父兄ノ信憑ヲ得タル者アリ是等ハ試驗ヲ要セス相當免許狀ヲ授與シ教員トナスモ敢テ不都合無之ト認候間目下教員欠乏之際任用之便路ヲ開キ且自今本人共一層之獎勵トモ可相成ニ付右様取計度此段相伺候也
指令 伺之通(十六年九月四日)

●履修リ學科ハ試驗ヲ須ヒス免許狀下付之儀ニ付函館縣伺 (十六年八月三十一日)
相當ノ資格タル官立公立學校(中學校大學豫備門農學校醫學校等ノ類)ニテ學科履修ノ確証アリテ小學校中高等科ヲ論セテ教授ニ堪フルト認ムルモノハ別ニ試驗ヲ須ヒス品行年齡等不都合無之ニ於テハ教員免許狀或ハ其學科教授免許狀ヲ授與候テ差支無之候哉差掛候ニ付電報ニテ御指令有之度此段相伺候也
指令(十六年九月十一日)
八月三十一日付伺履修リ學科ハ試驗ヲ須ヒス免許狀下付スル儀ハ伺之通

●學務委員薦舉ノ儀ニ付山口縣伺 (十六年九月一日)
學務委員ハ其學區域内ニ本籍居住ヲ定メ且土地若クハ建物ヲ所有スルモノヲ薦舉可致ハ勿論ノ義ニ候處山間海隅島嶼等ノ僻地ノ如キ適任ノ者ヲ得難ク無餘儀土地柄ニ限リ甲學區學務委員ヨリ乙學區ヲ兼或ハ他學區ニ本籍居住ヲ定メシモノ及其子弟ヲ薦舉致度旨伺出候向有之右者實際無餘儀相見認メ候分ニ限リ應許致度此段相伺候也
指令 伺之通(十六年九月廿日)

●學區內經費ノ儀ニ付形縣伺 (十六年九月廿日)
官報第五十五號ニ有ル高知縣學區內經費伺ニ御指令文ノ内ニ尤モ該學區町村會ノ評決以下云々ノ意味ハ學區內經費ヲ異ニスルノ儀ニ非スレバ音ニ賦課徵收法ノミヲ異ニスルノ意ト解譯ヒリ右ハ目下關係ノ事件アルニ付キ直ク御指揮ヲ乞フ
指令(十六年九月廿五日)
本月二十日發電報伺高知縣ニ指令云々ハ一學區内ノ學校經濟ヲ異ニシタル場合ニ就キ差示シタルモノナリ尤經濟ヲ異ニセサルモノト雖モ亦同様取計苦シカラザル儀ト心得ヘシ

司法省指令

●身代限財產取調ノ儀ニ付福井縣伺 (十六年八月十一日)
官報第十九號ニ掲載有之千葉縣ヨリ身代限財產取調ノ際共有物件差押方ノ義ニ付御省ニ稟請候處其御指令ニ曰ク一村又ハ一部落ノ公有スル物件ハ其村内若クハ部内ノ一人身代限處分ニ遺フモ之ヲ差押フ可キ限リニアラスト雖トモ數人ノ共有ニシテ分ツベカラザル物件ハ之ヲ差押フベキモノトスト有之右御指令ノ旨意ハ公有ト私有トヲ大別サレタル者ニテ假令分別シ得ル物件ト雖モ私有ナル上ハ可差押旨ヲ示サレシル義ニ候哉聊疑似ニ涉リ候間否仰御指揮候也
指令 伺之通(十六年八月廿一日)

十六年九月

令 訓

○戶長公証猶豫ノ儀ニ付茨城縣伺 (十六年八月廿日)
通常貸借訴訟事件(身代限確定前)ニ付原告請求ニ因リ被告所有ノ不動産(客年第六十號公布ニ關係ナキ財産)質書入等ノ際裁判官ニ於テ特ニ公証猶豫セシムル場合有之候哉至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也
指令(十六年九月二日)

○舊法處刑期限中新法實施後重輕罪ヲ犯セシモノ假出獄之儀ニ付宮城縣伺 (十六年八月廿三日)
刑法第五十七條ニ曰刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サズトアリ就テハ舊法ニ處セラレ該刑期中新法實施後ニ至リ重罪輕罪ヲ犯セシモノ亦假出獄ヲ許サズト義ニ可有之哉將テ許スコトヲ得ヘキヤ若シ是レヲ許スモノトセハ其刑期四分ノ三計算方ノ如キニ舊刑殘日數ト新刑ニ處シラレタル日數トヲ合算スル義ト相心得可然哉此段相伺候也
指令 伺之趣前段見込通(十六年九月八日)

○盜難ニ罹リタル物品處分ノ儀ニ付長野縣伺 (十六年八月三十日)
爰ニ數種ノ物品盜難ニ罹リタル者數日ヲ經テ其物品ヲ拾得又ハ他人拾得テ之ヲ届出タル場合ニ於テハ司法警察官ハ本犯誰ナルヲ知ルニ由ナク到底就縛ノ目的ナクシテ假渡ヲ爲スモ結局事主ノ誤認ニ相成ル可クト思料スルカ又ハ物品數十日ヲ經過スレハ廢敗ノ恐アル者ト見認ムルトキハ其物品ノ數及ヒ價格品類等詳細登錄シ置キ之ヲ後日ノ證據物ト爲シ物品ハ直ニ事主ニ下渡シ候テ不苦哉右差掛リタル事件モ有之候
指令 伺之趣前段見込通(十六年九月八日)

○犯罪ニ關スル物件處分ノ儀ニ付朽木縣伺 (十六年九月八日)
捨置品中贓物其他犯罪ノ証憑トナスヘキ物件アリ警察官ヨリ之ヲ拾事ニ送致セシニ犯人未ダ捕ニ就カスニテ公訴期滿免除ノ期限ヲ經過シタルトキハ其物品ハ行政官ノ處分ニ屬スルモノニ候哉果シテ行政官ノ處分ニ屬スルモノトモトセハ前懸ノ物品ハ勿論犯罪物ト爲メ檢事ニ於テ直ニ勾取シタル物件中事主不明ナル者ニシテ期滿免除ノ期限ヲ過キタルモノモ檢事ヨリ警察官ヘ引渡シ相成ルヘキ筈ニ之レアルヘキ哉此段相伺候條至急御指揮仰キ候也
指令 伺之通(十六年九月十日)

○身代限財產取調之儀ニ付朽木縣伺 (十六年九月十日)
身代限財產調ノ際本人ハ勿論家族親族及ヒ隣家ノ者マテ立會ヲ拒ム時ハ戶長ニテ直ニ取調可然哉至急御指揮ヲ乞フ
指令(十六年九月十九日)
身代限財產調ノ儀ニ付伺ノ趣ハ見込ノ通タルヘシ但シ戶長ニ於テ財產調書ニ本人等立合ヲ拒ムニ付直ニ取調ヲ爲シタル旨ヲ附記スヘシ

○土石ヲ竊取シタル者處分之儀ニ付愛媛縣伺 (十六年九月二日)
道路堤防河川或ハ田圃山林等ノ土石ヲ掘取リ(刑法第六十二條第四百十一條第四百十二條第四百十九條ノ如キ甚シキニ至ラサルモノ)他ニ賣却シ利ヲ圖リタル者アリ之ヲ法律ニ照スルハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ヲ以テ論スヘキ乎果シテ然ラハ第三百七十三條及第三百七十三條ノ田野又ハ山林ニ於テ產物ヲ竊取シタル者ト權衡其宜ヲ得サルカ如何トナレハ一月ハ二月以上四年以下ノ重禁錮

ニシテ一ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ナリ產物ヲ竊取スル者ハ輕キニ處セラレ土石ヲ竊取スルモノハ重キニ處セラレ其輕重ヲ失スレハナリ若シ又之ヲ第三百七十二條ノ第三百七十三條ニ該ル者トナスカ其明文ナキテ如何セヨ然リト雖モ之ヲ不問ニ付テハ取締ノ道相立タサルハ今更言ヲ待タサル義ニ有之依テ右田浦山林ハ第三百七十一條第三百七十三條ニ包含シタル者ト解釋シ道路堤防河川ハ本縣ニ於テ違警罪ニ差加ヘ可然哉將テ總テ違警罪ニ差加フヘキ義ニ可有之哉疑岐相生候ニ付此段相伺候至急何分ノ御指令相成度候也

指令(十六年九月廿一日)
伺之極盜情ニ出テタル者ハ第三百六十六條產物タルヘキ土石ハ第三百七十三條ニ依リ處分スヘキモ其所爲些少ニシテ盜情ニ出テサル者ハ違警罪目ニ加フルモ妨ナシ

○監視人取扱方ノ儀ニ付京都府伺
(十六年九月十三日)

甲地在籍ノ者乙地(他管轄ヲ云フ)ニ於テ罪ヲ犯シ主刑滿期ノ上本人ノ申立ニ寄リ在籍地ニ於テ監視執行ノ爲メ乙地警察署ヨリ甲地警察署ヘ本犯送致セシトキハ甲地警察署ハ監視執行ノ爲メ其住所ヲ調フルニ本犯ハ丙某附籍ナリシカ其丙某ハ曾テ失踪シ唯戸籍ノミ存在スルモ本犯住居スヘキ家屋及ヒ引取人モ無之又赤貧ニシテ別ニ住所ヲ定ムルコト能ハス如此場合ニ於テハ在籍則甲地ノ監獄署ヘ引渡シ全署ニ於テ刑法附則第三十二條ノ處分ヲ爲ス可キ義ト相心得可然哉將乙地則主刑執行地ノ監獄署ヘ送戻シ同署ニ於テ同様ノ處分ヲ爲スヘキ義ニ可有之哉目下差掛リ候事件有之候間至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

指令(十六年九月廿六日)
○烟草稅則違犯者取扱方ノ儀ニ付兵庫縣伺
(十六年八月七日)

烟草製造人ニシテ製造シタル刻ニ烟草ヲ稅則第十三條ノ製置區分ニ違ヒ(例ハ制限外ノ量目則チ千五百五十匁又ハ八十匁ニ製置シ其量目ノ割合ニ應シ相當スヘキ印紙ヲ用ヒタルモノ、領)同則第四十一條ニ該ル者右烟草現在スルモ該條ニ照シ沒收スヘキモノナリト雖トモ既ニ賣渡シ仲買人小賣人ニ於テ所持スルモ其仲買小賣人ハ之ヲ買請ケケル罰令ナキテ以テ其烟草ハ沒收スルヲ得サルヘシ然ラハ右製造人ハ第四十一條ノ罰金ノミニ止リ仲買小賣人ハ不問ニ措キ該烟草ハ其儘賣買スルヲ得ヘキ義ニ候哉右差掛リタル件ニ付速ニ電報ヲ以テ御指揮有之度此段相伺候也

指令(十六年九月廿七日)
八月七日附同烟草稅則違犯ノ儀ハ見込ノ通但該烟草ハ製造人ニ返付シ改造セシムルカ若クハ稅則第十五條ニ依リ崩賣ニ爲スニ非サレハ買賣スルコトヲ得ス

大藏省指令
○賣藥營業者免許期限過鑑札書換及税金徴收之儀ニ付山形縣伺
(十五年十一月十七日)

賣藥營業者免許證札記載之月ヨリ滿五年ヲ過キ尙鑑札ヲ得ント欲スル者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシト規則上正條ニ付免許期限ニ至リ新鑑札願受ケル者ハ鑑札書換手續料ヲ徴シ引續キ營業者トシ亦期限過ル際迄新鑑札願受ケル者ハ舊鑑札取調舊鑑札返納可爲致順序ノ處若シ免許期限經過新鑑札願受ケル者營業中絶セシ儀ニ付一旦廢業届出サセタル上更ニ營業出願セシメ新規鑑札料及營業稅トモ徴收可然哉或ハ是等ノ者ト雖モ引續キ營業ト同視シ鑑札書換手續料而已徴收可然哉且免許期限過キノ鑑札ヲ以賣藥營業セシ者有之時ハ規則第三十三條ノ無鑑札營業者ニ照準スヘキヤ右相伺候也

指令(十六年九月八日)
前段免許期限ニ至リ引續キ營業鑑札下付候モノ新規營業ト見做シ鑑札料營業稅共徴收可致事

十六年九月 令 訓
十一

○烟草定價附記ノ儀ニ付山形縣伺

(十六年九月八日)
本年第十号布達烟草稅則中心得第三項ニ價格及量目ヲ附記スヘシアリ右價格トハ
稅則第十三條ノ定價ニ據リ價格何拾錢以上何拾錢未滿ノ分ト附記スルカ又ハ價格即
定價何拾錢ト附記スル儀ナルカ右相伺候也
指令(十六年九月八日)
後段申出之通一個ノ定價附記スヘシ

○酒造營業引續ノ儀ニ付滋賀縣伺

(十六年九月五日)
酒造營業鑑札返納セシテ居タルモノ翌期中ニ引續キ營業出願スルトキハ新規ト見
做スノ限ニ非スヤ右相伺候也
指令(十六年九月七日)
十月一日迄ニ出願スルモノニ非サレハ引續キ營業ト爲スノ限ニ非ス二日以後ニ出願
スルモノハ新規營業ト心得ヘシ

○印紙類賣捌出願ノ受恩典者保証人ノ儀ニ付東京府伺

(十六年九月三日)
受恩典者印紙類賣捌出願ノ者保証人ノ制限ハナキモ証人戸主ニ非サルカ又ハ戸主ト
同居等ニシテ固ヨリ不動產ヲ所有セス拂下印紙價額ニ對シ保証ノ任不適當ト認
ムルモノハ許可セサルヘキヤ右相伺候也
指令(十六年九月十四日)
伺ノ保証人不適當ト認ムル片ハ更ニ相當ノ者選定ノ上出願セシムヘシ
(十六年八月四日)

○印紙類賣捌ノ儀ニ付和歌山縣伺

明治五年以來公務上傷疾ニ罹リ終身壹人扶持扶助料下賜ノ元兵卒ニシテ同八年四月
四拾八号公達(陸軍)官傷痍扶助死亡ノ祭資家族扶助概則年金下賜ノモノニ依リ
客年十二月第廿七号御布達印紙類賣捌手續第一條ニ準テハキヤ右相伺候也
指令 伺之通(十六年九月十八日)

農 商 務 省 指 令

○農商工會議ノ儀ニ付滋賀縣伺

(十六年八月十七日)
區町村會又ハ聯合區町村會ニテ議定シタル商法會議所及ヒ府知事縣令ノ裁可ヲ經テ
ル同業會等ノ決議ノ如キハ其關係ノ町村及ヒ同業者ニ在テハ町村會同業會ノ効力ヲ有
スル者ト被存候然ハ其決議ノ施行又ハ其關係ノ區戸長又ハ郡長ニ於テ便宜之ヲ爲ス
者ト相心得可然哉
指令(十六年九月七日)
伺之趣區町村會又ハ聯合區町村會ニアラサル他ノ各會ノ決議ハ區郡長又ハ戸長ニ於テ
施行スルノ限ニアラサル儀ト可相心得事

○勸業諮問會及勸業委員設置ノ儀ニ付富山縣伺(十六年八月廿五日)

第一 本年七月第八號御達第二項ニ戶長學務委員縣會議員等ノ職務アル者ト雖トモ
諮問會員ヲ兼務セシメ得ル事ヲ示サレタルニ據レハ勸業委員ヲシテ諮問會員ヲ兼
テシメ或ハ諮問會員ハ五十名以內ヲ以テ豫メ若干名ト定メ置クモ臨時其諮問スヘキ事項
ニ依リ其幾部(假令ハ農務ニ諮問ヲ要スルトキハ農事ニ名望アルヲ以テ撰任シタル
會員ノニ商務ニ關スル諮問ヲ要スルモ不苦哉將タ全部(其定員不殘)ノ招集ヲ要スル儀
ニ可有之哉

十六年九月 令 訓

第三 農商工事務統計通信等ノ事務ハ平素勸業委員ニ負擔セムヘキ質ノモノト存候得共管下偏シ勸業委員ヲ設置スルノ氣運ニ至ラサルキハ便宜擔當部落ヲ定メ假ニ諮問員ニ取扱ハシムルモ不苦哉

第四 拾三号布達第六條ノ各會其區域或ハ同業者中ニ公立シタルモノ其部内ノ利害ニ關スル事項ヲ議定シ郡戶長或ハ縣令ニ申報スルモノハ其事件ニ依リ縣令郡戶長之ヲ該部内ニ施行スルモ不苦哉

右條々相伺候條至急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

指令(十六年九月七日)

第一三四各項共同之通 第二項前段伺之通

○民設共進會賞狀下與ノ儀ニ付長野縣伺 (十六年八月八日)

一部内ニ於テ一町村若シハ數町村聯合シ民設ノ共進會ヲ開キ郡長ノ名義ヲ以テ賞狀(調製費用ハ悉皆該會ノ協議費ヨリ支出)下與ノ儀請願候者有之節ハ其望ニ任セ郡長ノ名義ヲ以テ賞狀下與致シ不苦儀ニ候哉右ハ勸業上親密ノ關係ヲ有シ裨益ナル處鮮カラサル儀ニ候得共準據スヘキ成例不相見目下伺出ノ向モ有之候間至急何分ノ御指揮有之度候也

指令(十六年八月廿五日)

伺之趣聞届候事(但明治十一年內務省乙第二拾三號達ニ準シ該會景況申報可致事)

高等法院裁判言渡書

- 福島縣磐城國田村郡三春町平民 廣中 三十四年三月 被告人
- 同縣同國同郡平民 田母野 秀顯 三十四年八月 被告人
- 同縣同國櫻葉郡高瀬村士族 澤 寧 三十四年三月 被告人
- 同縣岩代國安達郡二本松町士族 平島 松尾 廿八年十一月 被告人
- 東京府深川區深川伊勢崎町士族花香恭次郎 花香 恭次郎 二十七年 被告人
- 福島縣岩代國安達郡二本松町士族 澤田 清之輔 二十一年一月 被告人

右被告人等ハ政府ヲ顛覆セシムコトヲ相謀リシトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人等ノ答辨々護人等ノ辨論ヲ聽キ被告人等ノ白狀及ヒ証憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決ナルコト左ノ如シ

十六年九月

令訓

右被告人等ハ明治十五年七八月中福島縣福島町無名館ニ於テ政府ヲ顛覆スルコトヲ目的トシ内亂ノ隱謀ヲ爲シタル者ト判定ス其證憑ハ左ニ之ヲ明示ス
河野廣中ハ明治十六年一月二十七日若松輕罪裁判所豫審庭ニ於テ明治十五年八月一日福島無名館ニ於テ花香、愛澤、田母野、澤田、平島ト誓約セシコトヲ陳述シ且右誓約文記臆ノ問ニ對シ廣中ハ目ヲ筆ヲ執リ認メシ所左ノ如シ

誓約

第一 吾等ハ自由ノ公敵タル擅制政府ヲ顛覆シテ公議政体ヲ建立スルヲ以テ任トナス○第二 吾等ハ吾黨ノ目的ヲ達スルガ爲メ生命財產ヲ抛テ恩愛ノ繫繩ヲ斷テ事ニ臨ミ一切顧慮スル所ナカルヘシ○第三 吾等ハ吾黨ノ會議ニ於テ議決セル憲法ヲ遵守シ俱ニ同心一軌ノ働ヲナスヘシ○第四 吾等ハ吾黨ノ志望ヲ達セザル間ハ如何ナル艱難ニ遭遇シ又幾年月ヲ經過スルモ必ラス解散セザルヘシ○第五 吾黨員ニシテ吾黨ノ密事ヲ漏シ及ヒ誓約ニ背戾スル者アル時ハ直チニ自刃セシムヘシ右五條ノ誓約ハ吾黨ノ死ヲ以テ決行スヘキモノ也

明治十六年一月廿七日

若松輕罪裁判所ニ於テ認ム

河野 廣 中 摺印

又明治十六年四月四日本院豫審庭ニ於テ盟約書中政府ヲ顛覆シ云々トアルハ汎シ萬國ヲ指シタル者ナリ故ニ日本政府ヲモ包含シタルトモ單ニ日本政府ノミト御認メ相成テハ盟約書ノ成リタル素志ニ違フ義ニ候ヘハ此段モ申立候ト陳述セリ

平島松尾ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ汝等六名ニテ爲シタル盟約書第一條ニ我党ハ我日本ニ在テ壓制政府ヲ顛覆スルトアリ其壓制政府トハ現ニ

我日本政府ヲ指シタルナルヘシトノ問ニ對シ現今日本政府ハ壓制ノ傾キアリ而シテ盟約第一條ノ壓制トハ廣ク指シタルコトナリト答ヘ又廣ク指シタルトハ漢トシテ解シ難シ其傾キアリトハ蓋シ壓制ナリト云フノ意カトノ問ニ對シ然リ即チ現時ノ壓制ニ迫リ盟約シタルナリト答ヘ又然ラハ壓制政府トハ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナキ乎トノ問ニ對シ然リ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナシト答ヘタリ

又明治十六年一月二十五日若松輕罪裁判所ニ於テ檢事ガ汝ガ被告事件ニ付明治十六年一月二日一月三日一月十七日一月二十四日ニアリテ福島警察署及ヒ若松警察署ニ於テノ訊問ニ對シ陳述ハ相違之レナキカトノ問ニ對シ福島警察署ニ於テノ調書中兇徒聚衆事件ニ付テノ答ハ相違ノ廉モアレトモ盟約書其他之ニ關スル事ハ都テ毫モ相違無之候ト答ヘ右盟約書ヲ閱スルニ同盟ノ者汝ノ外五名ニ過ギス如何ノ方法ヲ以テ同志ヲ募ル見込ナリシヤトノ問ニ對シ我自由黨員中ニモ右盟約書ニ連署ノ外ハ漸次各自ノ信友中ヲ遊說シ加盟セシムル見込ニ有之且加盟者ニハ誓約血判セシムル申合ナリト答ヘタリ

又明治十六年一月廿五日若松輕罪裁判所豫審庭ニ於テ汝ガ犯罪事件ニ付明治十六年一月二日一月三日一月十七日福島警察署ニ於テノ陳述并十六年一月廿四日若松警察署ニ於テ陳述シタル相通違之ナキヤトノ問ニ對シ福島警察署ニ於テノ陳述調書中兇徒聚衆ノ事ニ付河野等ト協議シタルト申立タルノ一事ハ全ク無實ノ申立テ致候盟約其他ノ事ハ都テ少シモ相違無之候ト答ヘタリ花香恭次郎ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ盟約書ノ事ニ付本署ニハ專制政府ト記載シタルヤニ聞ク如何トノ問ニ對シ熟考スルニ壓ハ專ノ誤ナリ且第二條中目的ヲ達センカ爲メノ下ニ恩愛ノ繫繩ヲ斷テ生命財產ヲ擲ツヘシトノ正誤アラシト

ヲ請フト答ヘ專制政府トハ明治政府ヲ指シタルコトニ相違ナカルヘシトノ問ニ對シ尤モ然リト答ヘタリ而シテ恭次郎ガ筆記セシ明治十六年一月十四日付ノ書面ハ左ノ如シ

盟約

第一條 我黨ハ我日本國ニ在テ歷制政府ヲ顛覆シ真正ナル自由政体ヲ確立スルコトヲ志ス
第二條 我黨ハ前條ノ目的ヲ達セシメガ爲メ性命ヲ賭シ財產ヲ擲ツベシ
第三條 我黨ハ我黨ノ會議ニ於テ決議シタル事件ヲ決行ス
第四條 我黨員ニシテ我黨ノ密事ヲ漏スモノハ直チニ斬ニ處ス
第五條 我黨ハ以上ノ目的ヲ遂ケサレハ幾年月ヲ經ルモ渝ラサルヘシ
右ノ盟約ハ我黨ノ主義精神ニシテ則チ之ヲ神明ニ誓ヒ死ヲ以テ之ヲ守ルモノナリ未タ記臆ヲ寫シ得ス然レトモ大凡前書ノ如ク覺ヘ候

明治十六年一月十四日

花香恭次郎摺印

又明治十六年一月三日福島縣裁判所若松支廳豫審廷ニ於テ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ申立タル訊問調書ノ通りニ相違之レナキヤトノ問ニ對シ相違有之候ト答ヘ相違ノ箇所一々申立ユトノ問ニ對シ盟約書ノ第一條ニ我日本國ニ在リトハ自由ノ抗敵タル誤寫第四條直ニ斬ニ處スヘシトハ直ニ自办セシムヘシノ誤寫ニ之レアリ又シ調書中明治政府ヲ指スカノ答ニ尤モ然リト之レアルハ地球上總テノ專制政府ヲ指シタルモノニシテ即チ日本政府モ其ノ内ニ之レアリ候ト答ヘ右ノ外ニ相違無之カトノ問ニ對シ相違無之候ト答ヘ盟約書第一條ニ政府ヲ顛覆ストハ如何トノ問ニ對シ政府ヲヒツクリ返スコトナリト答ヘ政府ヲヒツクリ返スコトハ謀反ナルノ謂カトノ問ニ對シ然リ如何様ニモ御名ツケアリテ

然ル可レト答ヘタリ

河野廣中ハ明治十六年五月二日本院ノ下調廷ニ於テ八月一日夜中相談セシ人名カ四人ナラハ他ノ兩人ノ結盟シタルハ何日ナルヤトノ問ニ對シ八月一日ヨリ後ル、コト二三日愛澤又一兩日後ニ平島カ結盟シタルナリト答ヘタリ

愛澤寧堅ハ明治十六年一月廿八日若松縣裁判所豫審廷ニ於テ裁判官カ平島松尾花香恭次郎河野廣中等ノ申立テタル盟約書ヲ讀聞カセシ後此三人ノ申立中何レカ汝カ記臆スル所ニ近キカトノ問ニ對シ河野ノ申立テタルモノ稍近キニ似タリ然レトモ尙自分ノ記臆スル所ニ異ナルヲ免レス先ツ河野ノ申立テタル者ニ就キ自分ノ記臆スル所ヲ筆記シ置クヘシ然レトモ尙確タル者ニ非スト答ヘ而シテ被告即チ寧堅ハ其記臆スル所ヲ自筆シ差出シタルヲ以テ裁判官カ此今差出シタル汝ノ記臆スル所ノ者ハ河野廣中ノ差出シタル者ト符節ヲ合スル如ク小異ナキ者ノ如シ如何トノ問ニ對シ自分ノ記臆スル所ノ如シ然レトモ確タル者ニハ非サルナリト答ヘ又右誓約ヲナシタル年月日及ヒ場所其共ニセシ者ハ誰カトノ問ニ對シ明治拾五年八月初旬福島無名館ニ於テ河野廣中ニ其誓約書ヲ示サレ相計ラレタルニ因リ之ニ加盟ス當時河野花香田母野澤田ハ已ニ加盟血印シ置キタリト陳述セリ

花香恭次郎ハ明治拾六年四月三十日本院下調廷ニ於テ平島カ八月一日ハ他行ナナリシモ知ル可カラス然レモ其草稿ヲ起シタルハ六七日前即チ七月廿三日頃ニテ無論其席ニ列ナリシヲ以テ八月一日ハ他行中ナルモ結盟チナスノ事情ヲ熟知スルモノナリ否フサレハ盟約ノ調印成立ツヘキニラサルナリト陳述シ又八月一日ヨリ以前ニ集會シテ平島モ其席ニ在リシト云フガトノ問ニ對シ其席ニ在リシト答ヘ又盟約書起草ノ日ハ七月何日頃ト考フルヤトノ問ニ對シ結盟一周間

ト覺ニ故ニ七月廿二三日ナリト答ヘ又一週間前ニ談判シタル人員ハ幾名ト考フ
 ルヤトノ問ニ對シ河野、田母野、澤田、余及ヒ平島ナリト答ヘタリ田母野秀顯ハ明
 治十六年一月二十五日若松警察署ニ於テ其方ハ河野、平島、花香等ト非常ノ盟約
 ナ爲シタル事アルヘントノ問ニ對シ明治十五年七月頃盟約シタルコトアルニ相
 違ナシト答ヘ又何處ニテ爲シタルヤ誰々ナリシヤトノ問ニ對シ河野廣中、澤田
 清之輔、花香恭次郎、自分合セテ四名ナリシカ其後聞シ處ニヨレハ平島松尾モ加
 盟シタリト云フト答ヘ又此誓約タル死ヲ以テシタルヤ如何トノ問ニ對シ死ヲ以
 テ盟約シタルニ相違ナシト答ヘ又其條項汝カ記憶スル處一々申立テヨトノ問ニ
 對シ克ク記憶セサルヲ以テ答フル能ハスト答ヘ又汝ハ記憶セサルヲ以テ其盟約
 ナ免ントスル者ノ如シ請求ニヨリテ平島松尾カ供出并ニ筆記シタル盟約書ヲ示
 ス其期讀ヲ聞キ答辨ヲ爲セトノ申聞ケニ對シ諾ト答ヘタリ玆ニ於テ若松警察署
 ニ於テハ平島松尾カ福島警察署ニテ記シタル盟約書即チ若松警察署調書ノ末ニ
 附綴セシ謄本ヲ示シタリ右謄本左ノ如シ

盟約書

第一條 吾黨ハ吾カ日本國ニ在ツテ壓制政府ヲ顛覆シ自由ノ制度ヲ確立スルコ
 トヲ務ムヘシ○第二條 吾黨ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メニハ生死ヲ顧念セス○
 第三條 吾黨ハ妻子眷屬ノ係累ヲ絶チ且ツ財產ヲ盡却スルヲ願ニス○第四條
 吾黨ノ衆議ヲ以テ決斷スルモノハ斷行スヘシ○第五條 吾黨中ノ秘事ヲ漏スモ
 ノハ斯ニ處スヘシ右ノ條々死ヲ以テ誓フ者也

明治十六年一月十四日夜八時

平島松尾 押印

玆ニ於テ汝ハ前キニ記憶セサル旨申立シニヨリ朗讀ノ示タリ如斯同盟者カ自白

ズルヲ以テ見レハ汝モ相違ナキヲ覺知シタルヘントノ問ニ對シ自分ハ記憶セサ
 レトモ今朗讀ヲ受ケテ其盟約書ナリト答フト陳述シ又タ盟約書第一條ニ壓制政
 府ヲ顛覆スルトアルカ日本政府ヲ指シタル者ナルヤトノ問ニ對シ單ニ日本政府
 ノミナラス社會ノ壓制政府タル者ハ悉皆含蓄シタルナリト答ヘタリ
 又タ明治十六年六月十八日本院下調廷ニ於テ其盟約ヲ爲シタル時ハ何レノ頃ナ
 ルヤトノ問ニ對シ十五年七月下旬ナリト答フル者カ無名館ニ描ヒタル時何ノ話シ
 ヲリ起リシカ遂ニ社會ノ安寧ヲ企圖スルノ談話ニ入り此ニ盟約ノ草稿ヲ試シ而
 シテ八月一日ニ至テ亦六名カ集リ即チ盟約血判セリ其發議ハ上陳ノ如ク五六日
 前ノコトナリト答ヘ又タ然ラハ七月下旬ニ相會セシ人名ハ誰々ナリヤトノ問ニ
 對シ盟約シタル六名ナリ然レトモ此ノ爲メニトテ集會セシニアラス偶然此六名
 カ集合シタリシナリト答ヘ又其六名トハ花香恭次郎、平島、松尾、河野廣中、愛澤寧
 堅、田澤清之輔並ニ田母野秀顯ナルカトノ問ニ對シ然リト答ヘタリ
 又タ此盟約書ヲ澤田清之輔カ淨書スル際ニ文詞中是ハ箇條ニスルカ宜シトカ何
 トカ其文字ニ付テ同盟者ノ意見ハナカリシヤトノ問ニ對シ大ニ意見ノ合ハサル
 所アリテ專ラ第一二條ニ付テ議論セリ即チ第一條ニ自由ノ公敵タル壓制政府ヲ
 顛覆スルトアリ其顛覆ノ文字ハ干戈ヲ執リテ政府ヲ倒スノ義ニテ今自由主義上
 ニテハ言論又ハ文章ヲ以テ政治ノ改革ヲ圖ルヘキ者ナレハ顛覆ノ文字ヲ置カサレハ文
 ト云ヒ或ハ自由ノ公敵タル壓制政府ヲ書キ來レハ顛覆ト文字ヲ置カサレハ文
 勢甚タ拙ナシ何ソ干戈ヲ執ルノミニ止マランヤト云フ者アリ彼是論シタルモ終
 ニ之ヲ清書スルニ際シ改革ト記セシヤニ思考スレトモ確ト覺ニス其清書前ニハ
 政府ヲ顛覆トノ文字ハアリタリト答ヘタリ
 花香恭次郎ハ明治十六年三月二日本院豫審廷ニ於テノ答ニ政府ヲ顛覆スルノ二

字ナリ之ヲ起草スルトキハ其意味ナリシモ各調印スル時ニ右顛覆ノ二字ヲ改良ニ改ムルヲ宜シトストフ説之アリ其説ハ顛覆トハ唯ヒツクリカヘスト云フ而已ノ意味ニシテ面白カラズ顛覆シ尙之ヲ改良スルト云フ意味ニスル方好シトノ謂ニシテ右改良ト致シタリ今日ニ至テ思ヘ付キタリト陳述シ又々改良トハ顛覆シタル後之ヲ改良スルノ意ナルカトノ問ニ對シ左様其通ニ相違無之候ト答ヘタリ平島松尾ハ明治十六年四月四日本院豫審廷ニ於テ自分ニ於テ平生ノ志ニ處壓制政府ヲ改良スルニ在ルヲ以テ彼ノ第一條モ壓制政府ヲ改良云々トアリシト記臆任候得其實ハ自分ニ於テ彼盟約書ノ成立ツ時ニハ其協議ニ加ハラス他行不在中ニシテ爾後廿日計モ後ニ在テ河野廣中ヨリ示サレ同盟シタル儀ニシテ盟約書記載スル處ノ字句等ハ自分其協議ニ加ハラサルヲ以テ猶更今日ニ於テ遺忘致シタル儀ニシテ素ヨリ改良ト書スルモ顛覆ト書スルモ同意味ニシテ到底改メナキルニハ顛覆セサルヘカラス顛覆セハ改良セサルヘカラスト陳述セリ

澤田清之輔ハ明治十六年五月三十日本院下調廷ニ於テ明治十五年ノ七八月中無名館ニ於テ河野等ト血判盟約シタルコトアリヤトノ問ニ對シ八月三十日ニ於テ約束シタルコトアリト答ヘ又々其場所ハ如何トノ問ニ對シ福島町宇南裏通二ノ十五番地ニシテ福島自由新聞ノ設ケアル所ナリト答ヘ又今ノ番地ハ無名館ト稱スル所カトノ問ニ對シ然リ舊名六軒町ニテ今ハ宇南裏通二ト申ス所ナリト答ヘ又同席シタル人名ハトノ問ニ對シ余ハ其時新聞社ノコトニテ起居勿劇 際ナリシヲ以テ誰々ナリヤトハ判然記臆セス田母野花香河野ノ三氏ハ居タリト覺ユト答ヘタリ

右ニ列舉セシ証憑中死ヲ以テ誓フ自刃セシム斬ニ處ス死ヲ以テ決行ス等ノ記臆ノ書取リ及ヒ連署ノ外ハ漸次遊説シ加盟血印セシムル申合ナリトフ供連改良ヲ要ス

ルニハ顛覆セサルヘカラス顛覆セハ改良セサルヘカラストノ供連顛覆シ尙之レト改良スルト云フ意味ニスル方好シトノ謂ニシテ右改良ト致シタリトノ供連改良トハ顛覆シタル後之レヲ改良スル意カトノ問ニ對シ左様 答ヘ政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ謂ガトノ問ニ對シ然リト答ヘシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ証憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ掲ケシ如ク判定スヘキ証憑充分ナリトス

而シテ被告人等ハ結盟セシ血判ノ誓約書ハ既ニ取消シタリト申立ツレトモ相立タス何トナレハ其取消シタルノ証憑ナキヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニハ政府ヲ顛覆スルトノ文字アリシモ誓約書ノ原書ニハ添紙ヲ以テ改良ノ文字ニ改正シ置キタリト申立テシモ相立タス何トナレハ後ノ添紙ヲ以テ既ニ血判セシ誓約書ヲ改正セシトノ申立ハ相立タサルヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニ政府ヲ顛覆スルトノ文字アルハ言論文章ヲ以テスルノ顛覆ニシテ暴行ヲ以テスルノ顛覆ニ非ラズト申立ツレトモ相立タス何トナレハ本件即チ被告事件ノ顛覆スルト云ヘル事實ハ上文ニ掲ケシ証憑ニ據リ暴行ヲ以テスルノ顛覆ナリト判定スルニ充分ナルヲ以テナリ又々顛覆トハ内亂ヲ爲スノ目的ニ止リ内亂即チ暴行ヲ爲スコトヲ隱謀セシトナシト申立ツレトモ相立タス何トナレハ誓約記臆ノ書取リニ政府ヲ顛覆シト記載シ又ハ死ヲ以テ決行スルト記載シ又々政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リト答ヘタル等ニ據レハ内亂即チ暴行ヲ爲スコトヲ隱謀セシトナシトハ不當ノ陳述ナルヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニ政府ヲ顛覆スルトノ文字アルハ外國政府ヲ指シタル者ニシテ我カ政府ヲ指シタル者ニ非スト申立ツレト相立タス何トナレハ本件即チ被告事件ニ云フ所ノ政府ハ上文ニ掲ケシ証憑ニ據リ我政府ヲ指シタルト明瞭ナルヲ以テナリ

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第二百一十一條ニ曰ク政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四 教唆ニ乘シ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第二百二十五條ニ曰ク兵員ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百一十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内亂ノ隱謀ヲ爲シ未ダ豫備ニ至ラサルモノハ二等ヲ減ス

刑法第四百四條ニ曰ク二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

刑法第六十八條ニ曰ク國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人河野廣中田母野秀顯愛澤寧堅平島松尾花香恭次郎澤田清之輔ニ對シ刑法第二百二十五條第二項ニ依リ刑法第二百一十一條第一項

ノ例ニ照シ二等ヲ減シ各有期流刑ニ處スヘキ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違背罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等或ハ二等ヲ減ストアルニ依リ各有期流刑ニ二等ヲ減シ刑法第二十三條輕禁獄六年以上八年以下ノ範圍内ニ於テ河野廣中ハ輕禁獄七年田母野秀顯愛澤寧堅平島松尾花香恭次郎澤田清之輔ハ各輕禁獄六年ニ處スル者也

明治十六年九月一日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊驥檢事竹内維積檢事堀田正忠檢事澄川拙三立會宣告ス

- 高等法院裁判長判事
- 高等法院陪席裁判官元老院議官
- 高等法院陪席裁判官元老院議官
- 高等法院陪席裁判官判事
- 高等法院陪席裁判官判事
- 高等法院書記大審院書記
- 高等法院書記大審院書記

- 玉乃世履印
- 長岡護美印
- 林岡友幸印
- 岡内重俊印
- 關内義臣印
- 武久昌孚印
- 竹端昌忠印
- 荒木龍兆印

明治十六年十一月一日御届
同 十月廿三日出版

定價金拾八錢

編輯兼出版人

山梨縣士族

鯉 淵 懋

甲府錦町十七番地

發 兌

不 爭 館

甲府常盤町七番地

山梨縣平民

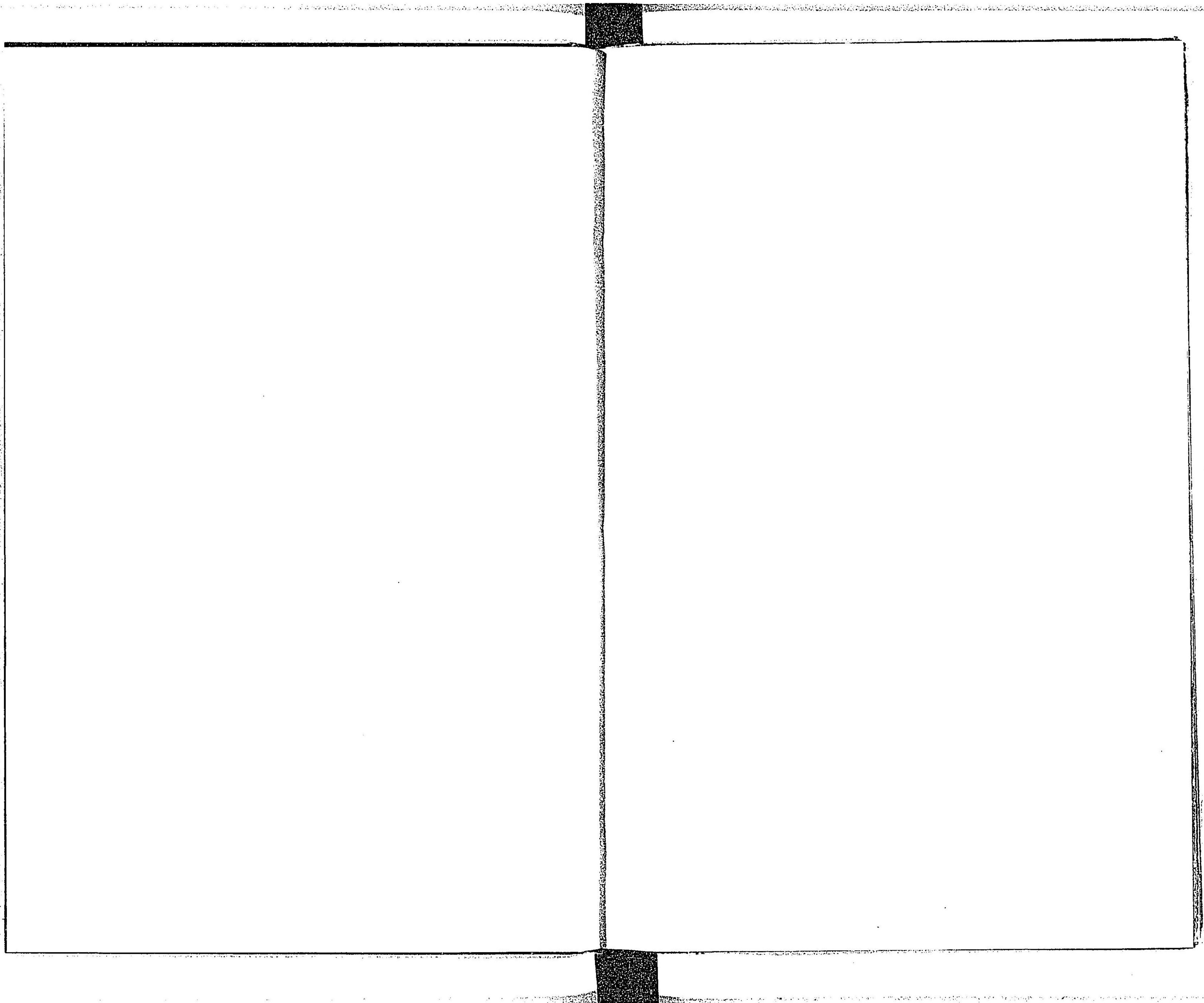
岡藤 傳 右衛門

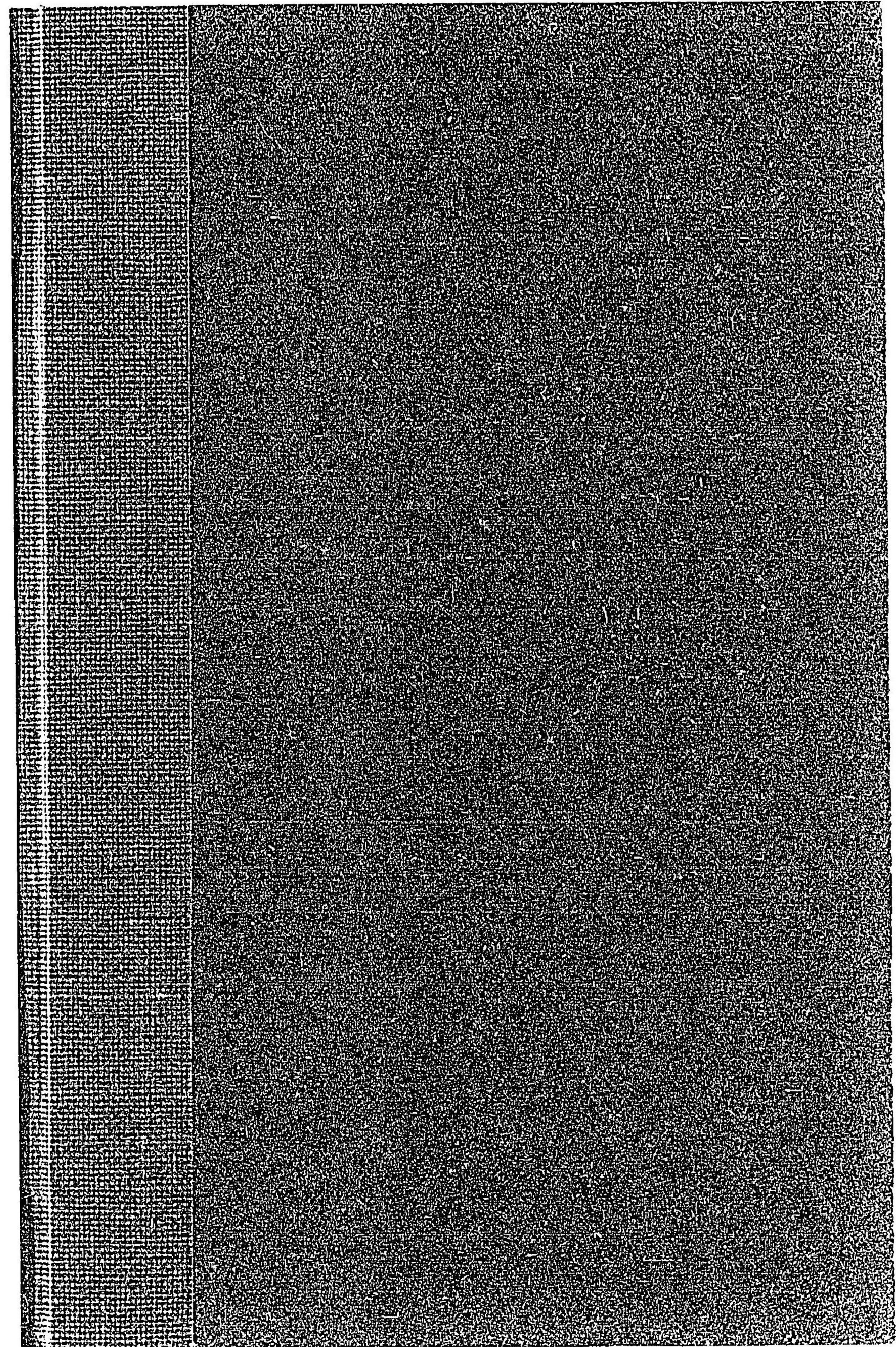
甲府常盤町四番地

大 賣 捌

12A-95

東 京 圖 書 館				
		十五		新書門
冊	號	架	函	類 部





031233-000-4

CZ-1113-53-01

官令類纂 明治16年9月

鯉淵 懋/編

M16

BBD-0240

